HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	ボーダーを越える「ケベックの歌姫」(<特集>共同研究報告 ： 欧米諸国における多文化の問題と日本の課題(続々))
著者	井上，真蔵
引用	北海学園大学人文論集，20：1-59
発行日	2001-11-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

ボーダーを越える「ケベックの歌姫」

井　上　真　蔵

Ⅰ．はじめに

〝Divas of Pop〟として，セリーヌ・ディオンは1996年8月12日号の『タイム』の表紙を飾った。オスカー賞をはじめとして様々な賞を多数受賞し，世界中でのCDの売り上げも驚異的である。まさに国際的な「ポップスの歌姫」であると言われるゆえんである。インターネットを開いても，関連するホームページの数は膨大で，ファンクラブも国境を越えて存在しているのが分かる(1)。

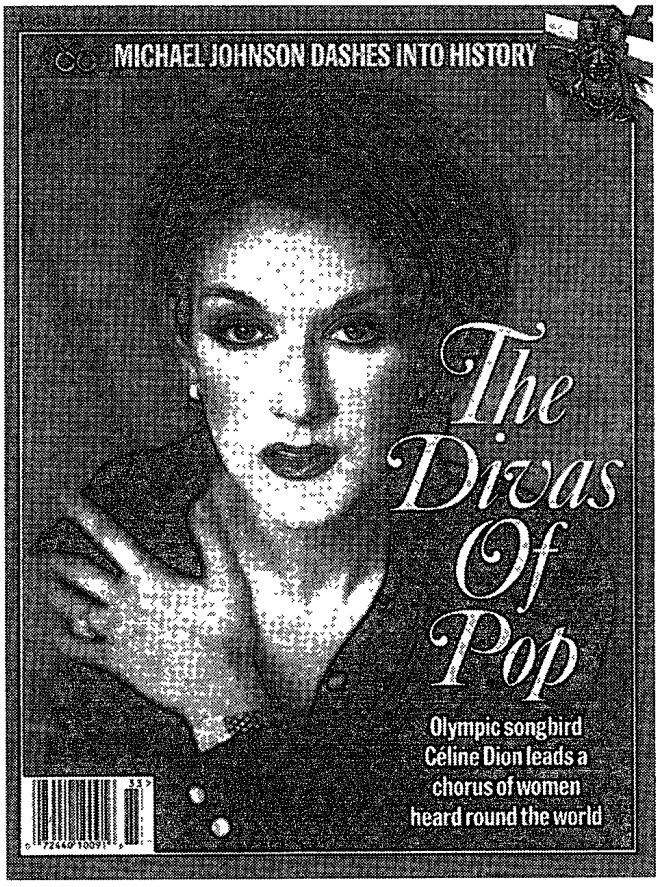
しかし，単にセリーヌ・ディオンと言っても，日本では「知る人ぞ知る」で，ピンとこないかも知れない。ところが，映画『タイタニック』のテーマソング *My Heart Will Go On* を歌っている歌手と言えば，その歌声やメロディーを思い出す人々は多いはずである。因みに，周りの若い人たちにセリーヌ・ディオンのことを尋ねて

『タイタニック』より

(1) セリーヌ・ディオンのソニーによる公式ホームページは，http://www.celineonline.com/であり，音楽活動の他に簡単な経歴なども記載されている。公式ファンクラブのホームページは次の通り。http://clubs.yahoo.com/clubs/celinedionofficialfanclub.

みると,『タイタニック』のテーマソングについては知っているものの,「フランス人？」とかの答えもあり,「カナダ出身」とまでは分かっていたとしても，それ以上のことになると余り知られていないようだ。

インターネットでセリーヌ・ディオンを調べてみると，関連する多数のwebsiteがあり，その情報量は莫大である。しかし，当然のことながら，その大半は音楽や公演活動などに関するものである(2)。ここで取り上げるのは，そのような音楽的側面ではない。われわれが問題とするのは，セリーヌ・ディオンがカナダ的文脈の中でボーダーを越えていった時，それは「どのような意味を持ち,どのような影響をもたらしたのか」，ということである。『タイム』の表紙で扱われるような国際的なスーパースターともなれば，もはやボーダーを越えることは大したことではないだろう。しかし,"la p'tite Québécoise"と呼ばれた「ケベックの小さな村の女の子」が，そもそも，どのようにして,そのような国際的なスーパースターになることが出来たのであろうか。そして，その過程で，様々なボーダーをどのようにして越えて



(2) 日本語で入手可能なものは少ないが，1999年1月そして2000年4月に出版された次の書物がある。ジャン・ボーノワイエ（岡田好恵訳）『セリーヌ・ディオン――愛のストーリー』吟遊社，1999年。ジョルジュ-エベール・ジェルマン（山崎敏，中神由紀子訳）『セリーヌ・ディオン』，東京学参株式会社，2000年。

いったのであろうか。また，その際にどのような問題や摩擦が生じ，それらに対してどのように対処していったのであろうか。そして，セリーヌ・ディオンの行動は，カナダ社会にどのような影響や変化をもたらしたのであろうか。本稿は，これらの問いに答えようとする試みである。

II．国際的スーパースター（Global Diva）

セリーヌ・ディオンは「国際的スーパースター（Global Diva）」と呼ばれているが，「国際的スーパースター」とは，一体何なのか？　まずは，その特徴を簡単に把握しておこう。なぜなら，セリーヌ・ディオンの場合，「国際的スーパースター」になる過程において，様々なボーダーを越えることが不可欠なことであったし，その過程で普通では起こりえないような様々な問題が生じたからである。そして，一旦「国際的スーパースター」として認知されると，普通では越えることが不可能な様々なボーダーを越えることが可能になるに他ならないからである。

「国際的スーパースター」と呼ばれるのは，世界でも一握りの人々に過ぎない。セリーヌ・ディオンの場合は，1996年8月12日号の『タイム』で〝Divas of Pop〟として表紙を飾り，まさに「国際的スーパースター」として認知されたと言ってよいだろう。「国際的スーパースター」とは，簡単に言えば，国境を越えて何千万枚ものCDが売れ，数多くの賞を獲得し，そして重要なイベントでのパフォーマンスが世界中の何十億もの人々の注目を集め，常に見られている存在であると言うことができる。

1．驚異的なCDの売上げ

CDの売上げを見れば，「国際的スーパースター」とはどのようなものかは，一目瞭然であろう。セリーヌ・ディオンの場合，1980年に12歳でデビューして以来，CDの売上げは10万枚単位，100万枚単位，1,000万枚単位で増加している。1983年にケベック州内では，*D'amour ou d'amitié*(『愛か友情か』)が，30万枚，ヨーロッパでは40万枚売れる。*D'amour ou d'*

amitié（『愛か友情か』）はフランスでゴールド・ディスクになり，これはカナダ人としては初めてのことであった(3)。4枚目のLP *Les chemins de ma maison*（『私の家への道』）は，プラチナ・アルバムになり，1984年のLP Mélanie(『メラニー』)も，恋する若い女性の心を歌い上げ，発売と同時に，ケベックでプラチナ・アルバムになっている(4)。これらは10万枚単位の売上げであるが，それが1992年以降には，100万枚単位となる。ディズニー映画『美女と野獣』のテーマソングは，1992年初めには200万枚以上の売上げとなった(5)。『セリーヌ・ディオン』（『美女と野獣』のテーマ他13曲収録）は発売からわずか数ヶ月の間に，世界中で400万枚以上の売り上げを記録している(6)。

そして，1994年の夏の終わりには世界的なスターになったと言える。*The Colour of My Love* のカナダでの売上げは100万枚，アメリカでは250万枚である。北米のみならず，韓国，マレーシアでもプラチナ・アルバムになり，フランス，日本，インドネシア，香港，ニュージランドではゴールド・アルバムになった。そして，世界中の売上げ総数は1,300万枚となるのである(7)。

こうして，1994年から世界的に見れば，1,000万枚の単位の売上げとなる。1996年の *Falling Into You* が，世界の11カ国でヒットチャートのトップになり，5,000万枚売れることになる(8)。1997年11月に *Let's Talk*

---

(3) Jeremy Dean, *Celine Dion — Let's talk about Love*, Welcome Rain: New York, 1998, p. 20.

(4) ジャン・ボーノワイエ（岡田好恵訳）『セリーヌ・ディオン ── 愛のストーリー』吟遊社，25ページ。

(5) 同上，77-78ページ。

(6) 同上，88ページ。

(7) Gerges-Hébert Germain, *Celine — The Authorized Biography of Céline Dion* (translated by David Homel and Fred Reed), Dundurn Press: Toronto, Oxford, 1998, p. 347.

(8) Dean, *op. cit.*, pp. 45-46.

About Love がリリースされた。1ヶ月後には『タイタニック』が封切られ，1997年の12月には，*Let's Talk About Love* は1,000万枚以上の売上げになった。1998年には，2年間で4,500万枚というスピードで，歴史的記録をたてたのである。まさに，目を見張るような驚異的な売り上げである[9]。

2．著名な賞の獲得

このような驚異的なCDの売上げとともに，数多くの著名な賞の獲得もスーパースターとしての証である。

最初の大きな賞は，東京で開催されたヤマハ世界音楽祭での金賞の受賞である。1982年，セリーヌが14歳の時のことであった。それ以後，ケベック，カナダ，ヨーロッパ，アメリカで多くの賞を獲得するのである。

1983年には，ケベックのADISQの授賞式で4部門の賞を受賞。1985年には，ADISQ賞で5つの賞を受賞。さらに同じ年にケベックでフェリックス賞を5つ受賞し，ケベック内では人気歌手になっていくのである[10]。1988年には，アイルランドのダブリンで行われたユーロビジョンコンテストで優勝し，ヨーロッパ，ソ連，中東，日本，オーストラリアなどのテレビを見る6億人の人々の注目を集めることになる。

そして，1992年からは，まさに世界的な賞を受賞することになる。1992年3月30日には，20億人が見ているというアカデミー賞授与式で授賞する。1993年2月24日には，ロスでグラミー賞を受賞する。『美女と野獣』で「最優秀デュエット賞」を獲得するのである[11]。1996年には，*Falling Into You* が，ベストセラーとなり世界の11カ国でヒットチャートのトップになる。モンテカルロの世界音楽賞 (Best-Selling Canadian Artist, World's

---

[9] *Ibid.*, p. 64.

[10] Barry Grills, *The Story of Celine Dion — Falling Into You*, Quarry Press: Ontario, Canada, 1997, pp. 55-56.

[11] ジャン・ボーノワイエ，前掲書，98-99ページ。

Best-Selling Pop Artist, World's Best-Selling Overall Artist など）を獲得する。カナダ国内では，ジュノー賞を4部門獲得。39回グラミー賞の最優秀賞，最優秀ポップ・アルバム賞を獲得[12]。そして，1997年には *Falling Into You* でグラミー賞を受賞し，翌年には *My Heart Will Go On* でアカデミー賞を受賞するのである[13]。

3．国際的イベント

国際的に重要なイベントや儀式に招待されたり参加することも，「国際的スーパースター」としての印であると言える。

カナダ人歌手セリーヌ・ディオンが，何とアメリカ第42代クリントン大統領の就任祝賀パーティに招待されたのである。1992年12月22日，ホワイトハウスで開催されたパーティには，アメリカ人歌手のミック・ジャガー，ハービー・ハンコック，マイケル・ジャクソンなどが招かれていたが，カナダ人のセリーヌ・ディオンも招待され，*Love Can Move Mountains* を歌ったのだ。そして，ヒラリー夫人が「セリーヌ！　すてきだったわよ！」とうっとりして話しかける様子も，全米にテレビ中継されたのである[14]。セリーヌ・ディオン自身も述べているように，「アメリカ人でもないのに，アメリカの重要な儀式に招かれることは大変光栄なこと」であり，スパースターになっていなければ，到底不可能なことであろう[15]。

さらに，1996年のアトランタ・オリンピックの開会式で，セリーヌ・ディオンが *The Power of the Dream* を歌っている。これはよく考えてみると大変なことである。まず，アメリカで開催されるオリンピックという晴れの舞台に，アメリカのスーパースターではなく，カナダのセリーヌ・ディ

---

[12] Dean, *op. cit.*, pp. 45-46.

[13] Marianne McKay, *Celine Dion*, Friedman/Fairfax Publishers: New York, 1999, pp 11-12.

[14] ジャン・ボーノワイエ，前掲書，97ページ。

[15] Dean, *op. cit.*, p. 64.

オンが選ばれたのである[16]。まさに世界中の「ポップス界の女王の中の女王」ということを意味している。しかも，キング牧師の街，ゴスペルの街のアトランタで，ゴスペル調の *The Power of the Dream* を歌ったのである[17]。そして，その様子は，スタジアムの 83,000 人の観衆だけではなく，テレビを見ている 35 億の人々の目と耳に届いたのだ。セリーヌ・ディオン自身にとってだけではなく，まさにカナダ人にとっても誇るべきことであった。

このように数々の国際的な舞台で活躍してきているが，日本の一般の人々にも知られるようになったのは，何と言っても映画『タイタニック』の世界的人気によるものである。『タイタニック』のテーマソング *My Heart Will Go On* を含むアルバムは 2,700 万枚売れ，この歌は第 70 回のアカデミー授賞式で Best Original Song を受賞している。そして，授賞式で *My Heart Will Go On* を歌うセリーヌの姿が世界のお茶の間に届けられたのである[18]。

4．勲章の授与

以上のようなセリーヌ・ディオンの国際的な活動は，カナダ国家とケベック州政府により公的に認められることとなる。カナダ政府とケベック州政府は，それぞれ国家と州の最高の勲章をセリーヌ・ディオンに授与し，その功績を讃えたのである。

---

[16] 選考の内幕については Ian Halperin, *Celine Dion: Behind The Fairytale — a Very, Very Unauthoraized Biography*, Boca Publications Group, Inc.: U.S.A, 1997 に詳しい。

[17] アトランタという街，キング牧師の街，ゴスペルの街で，セリーヌ・ディオンがゴスペル調の *The Power of the Dream* を歌うことを，「虐げられた黒人がゴスペルを歌う姿とカナダのフレンチ・カナディアンとの類似点を指摘するものもいる。Germain, *op. cit.*, p. 362.

[18] *My Heart Will Go On* は，アメリカのラジオ史上で最も放送された歌といわれている。McKay, *op. cit.*, p. 12.

1998年4月30日，ケベック州のルシアン・ブシャール首相は，セリーヌに勲章をつけながら，次のように述べている。

「ここケベックで，そして世界中で，あなたは最もよく知られ，そして賞賛されるケベクワーです。あなたは行く先々で，素朴で陽気なケベックの真のイメージを伝えてくれることは，喜ばしいことであります。あなたは，また今日のケベック人の特徴ともいうべき創造性とプロとしての意識をも伝えてくれました。あなたは我々の最もすばらしい大使なのです。」(19)

そして，その翌日の5月1日には，カナダ総督ロメオ・ルブランは，次のように語りながらセリーヌ・ディオンにthe Order of Canadaの勲章(20)を授けたのである。

「類いまれなる才能と精進，そしてダイナミックな活動が世界中の若いアーティストに勇気を与えてきました。音楽に心を捧げるだけではなく，ボランティア活動にも同じく貢献するところ大でありました。」(21)

---

(19) *Gazette*, Montreal, 1998. 5 1 (A9). Richard Crouse, *A Voice and Dream — The Celine Dion Story*, Ballantine Books: New York, 1998, p. 165. Don Macpherson, "Suzy Q, the Bloc's loose cannon" *Gazette*, Montreal, 1999.4. 7. (B3).

(20) カナダ総督により，傑出した業績を成し遂げたカナダ国民に与えられる最高の勲章である。

(21) *Gazette*, Montreal, 1998.5.2 (A21). Crouse, *op. cit* , p. 165. セリーヌ・ディオンの姪が嚢胞性繊維症により16歳で亡くなっている。セリーヌは，1982年よりCanadian Cystic Fibrosis Foundation（嚢胞性繊維症）のために，コンサートなどの募金活動を通じボランティア活動をしてきている。McKay, *op. cit* , p. 21.

こうして，国際的スーパースターとなったセリーヌ・ディオンは，「ケベックの最もすばらしい大使」であり，「カナダの象徴」と見なされるようになったのである。

III．ボーダーを越える資質（パワーとキャラクター）

セリーヌ・ディオンがプロとして歌い始めたのは12歳の時であった。そして10年余りでスーパースターになってしまった。才能を持った者でも，少女歌手から大人の女性歌手に成長して，さらに国際的なスーパースターの座まで登りつめるのは，ほんの一握りの限られた者にすぎない。セリーヌ・ディオンは，まさにそのような数少ない一人なのである。そして，セリーヌ・ディオンの場合，天才的な才能に加えて，夢を持ち，その達成への惜しみない努力の積み重ねが，ボーダーを越えるスーパースターの出現を可能にしたのである。

1．心をつかむ声

セリーヌ・ディオンは生まれつき「5オクターブ」の声を持つと言われている[22]。しかし，単に声域が広いというだけではなく，人の心をつかむ声の質と存在感を持っているのである。

3歳から歌い始め，5歳になると両親が経営するパブ *Le Vieux Baril*「ヴィユー・バリル（『古い樽』）」のテーブルの上に立ちジネット・レノの歌などを歌うのである[23]。そして地域のお客は，セリーヌの出番を待ち焦がれて『古い樽』に足を運んだのである。セリーヌの母親の話では，「セリーヌの歌を聞くと，誰でもセリーヌの虜になり，笑いが生まれ，悩み事を忘れさせる」と言うことであった[24]。こうして，地元の人々は，まだ小さかっ

---

[22] Dean, *op. cit.*, p. 21. McKay, *op. cit.*, p. 18.

[23] Grills, *op. cit.*, p. 32.

[24] Halperin, *op. cit.*, pp. 18, 23.

たセリーヌのことを〝la p'tite Québécoise〟と親しみをこめて呼ぶようになる(25)。

地元の人々の心をつかめたものの，それでは音楽のプロの心までつかめたのだろうか？　劇的な出会いは，セリーヌが11歳になった時にやってくる。母親がセリーヌと『夢にすぎない *Ce n'était qu'un rêve (It Was Only a Dream)*』という歌を合作して，後にセリーヌのマネージャになり，さらには夫となったルネ・アンジェリルに送ったのである(26)。そして，セリーヌはアンジェリル邸の応接間で，万年筆をマイク代わりに手に持ち，『夢にすぎない』を熱唱したのである。ルネ・アンジェリルは，セリーヌと会うまでにカナダのトップ・クラスの歌手たちのプロデュースをほとんど手がけているプロである。そのアンジェリルが，セリーヌの歌を聴いて，どうなったか。感動のあまり涙がでて，そして鳥肌が立って，しばらくは動けなかったのである。その時の様子をアンジェリルは次のように語っている。

> 「最初セリーヌの声を聞いた時は，ゾクッとして鳥肌がたったよ。感情がこもっていて，実際よりも年をとっているように感じたんだ。その *It Was Only a Dream* を聞いた時から，セリーヌならできると信じていたんだ。」(27)

プロとしてアンジェリルは，即座に「この小さな女の子は，全てを持っている。本能的な勘，力強い声，存在感。」と感じたのだ。それで，付添の母親に「5年で，あなたの娘さんは，ケベックとフランスで大スターになると保証します。」と述べたのである(28)。しかし，さすがに，「世界中で」とは言えなかったと言う。なぜなら，「フレンチ・カナダの誰もアメリカの

---

(25) McKay, *op. cit.*, p 28.

(26) ボーノワイエ，前掲書，11ページ。

(27) *Maclean's*, June 1, 1992 (Vol. 105, No. 22) p 41 Grills,*op. cit.*, p. 40.

(28) Germain, *op. cit.*, p. 91.

ショービジネスと契約を結んだことはないし，ケベックの誰も，国際的に売り出す組織を持っていなかったからだ。」とのことである[29]。

セリーヌの声を，「人の心に訴えかける声」とか，「人を目覚めさせる声」とかで表現するプロもいる。ジャン・ジャック・ゴールドマン[30]は，80年代初期の *D'amour ou d'amitié*（『愛か友情か』）を聞いた時，セリーヌの声に圧倒された様を次のように語っている。

> 「月並みな言い方だが，セリーヌの声には特別な何かがある。彼女が歌うと，人々は耳を傾けるのだ。これは，簡単に聞こえるかもしれないが，そうじゃないんだ。どこか，公共の場所に居たとしよう。周りは騒音だらけのね。そして，何か考え事をしていたとして，その時，突然，声が耳元に届いてきて，直接心をつかむんだ。それが，セリーヌなんだ。それで，完全に参ってしまったんだ。彼女の声の強さ，声の質，それもあるが，いかにきらびやかだったとしても，それだけではないんだ。つまり，人の心に訴えかけることができるんだ。」[31]

さらに，Vole（『飛べ』）のレコーディングに関わった人々は，セリーヌの声は「人を目覚めさせる声」であるという表現を用いて，その時の体験を語っている。

> 「コントロール・ルームの技術者もスタジオのミュージシャンも，圧倒されて，動けなかったよ。言葉もなくね。それから，物凄い体験をした人のように，お互いの顔を見つめあったんだ。催眠をかけられていたのが解けた時のようにね。ほんとに，そんな具合だったんだ。セ

---

[29] *Ibid*.

[30] ソニー・フランスのナンバーワンの歌手。内向的でPRもしないがCDは何百枚も売れる。

[31] Germain, *op. cit*., p. 346.

リーヌは人を目覚めさせるものがあるんだ。セリーヌの声がこちらに届いて，目覚めよと言うんだ。」[32]

セリーヌ・ディオンは，その声が聞く人の心を動かすだけではなく，その存在自身が人々を魅了してしまうらしい。CBC・カナダのバーガー社長は，就任早々セリーヌに会ったところ，「セリーヌにはとてつもない才能がある。声だけではなく，居るだけで人を引きつけるものがある。彼女に会えば，男だろうが女だろうが，魅了されてしまう。」と述べている[33]。こうしてCBC・カナダのバーガー社長はセリーヌを英語歌手として売り出すことを決心するのである。その時，セリーヌは21歳であった。

2．ライブ大好き

セリーヌは，その声だけではなく，存在自体が人々を魅了するのである。ライブで歌う時には，観客聴衆と一体となり，「セリーヌの世界」へ招き入れる魅力を持っているのである[34]。

セリーヌの最初の観客は，総勢15名の家族であった。2，3歳の時から歌い始めたが，既にライブの魅力はこの時から肌で感じていたのだろう。幼いセリーヌは，天使のような美声で大人顔負けの節回しで歌うものだから，「家族は皆，密かに舌を巻いていた」と言う[35]。そして，5歳になると『古い樽』で観客の前で歌い始めている。客の前で歌い，即座に客から拍手を受けるということが，理屈抜きに大好きだったのである。おまけに客の中には当時としてはかなりの額である10ドル札をご祝儀として渡す者もいたのだ[36]。お客は夢中だったのである。その様子を，5番目の姉ジスレー

---

[32] *Ibid*., p 353.

[33] *Ibid* , p 239.

[34] これは歌を聴くだけでは分からないが，ビデオを見るとよく分かる。Germainによる伝記でも，240-242ページの記述はその様子が伝わってくる。

[35] ボーノワイエ，前掲書，5ページ。

[36] Halperin, *op. cit*., p. 19.

ヌが次のように述べている。

「妹は人気を独り占めしてたわ。なにしろ可愛いし，小さいくせに歌唱力は抜群だったしね……。あの子が，母のお手製の，ブルーに小花模様のプリントのドレスを着て，白い手袋をはめて，小さなカツラをつけて，大人の歌を歌いまくると，お客さんはもう夢中！　あとの兄姉はかすんじゃって……。セリーヌにはやっぱり，生まれつきのスター性があったんでしょうね。」(37)

まだ就学前の幼児だったので，両親は店での出番は週に1，2ステージ，合計で30分程度と決めていたのだが，セリーヌは「もっと，もっと歌いたかった」のだ(38)。母親によれば，「店に出さないと泣き出してしまう」ほど，ライブで歌うのが大好きだったのだ(39)。

そして，12歳でプロとしてデビューした時には，観客をどうしたら感動させられるのかが，感覚的に分かっていたようである。最初のマネージャーのポール・レベックは，「歌の歌詞は分からなかったと思う。ともかく，12歳なんだから。それでも，どんな風に歌ったら良いか，どんな風に聞いている人を感動させるのかは，分かっていた。とてもエネルギッシュで，大受けだったよ。」と回想している(40)。

セリーヌ自身も述べているように，観客に感動を与えるライブはまさにセリーヌにとって生き甲斐なのである。それこそが歌いつづける理由だと言っても良いのだ。セリーヌ自ら次のように述べている。

「私はコンサートが大好きなの。もちろん，レコードを吹き込むのも，

---

(37) ボーノワイエ，前掲書。

(38) 同上，6ページ。

(39) Crouse, *op. cit.*, p. 11.

(40) Germain, *op. cit.*, p. 89.

テレビに出るのも素晴らしい体験よ。でも私は，目の前にお客さんがいて，私の歌を直接聞いてくれて，ダイレクトに反応を返してくれるのを見るのが一番好き。それはまさしく……生きているって実感できる瞬間ですもの。」(41)

「私は，私の声を聞いて，みんなが感情を表してくれるのが大好き。人生で一番ゾクゾクすることは，私の声を聞いて，心を動かしてくれることなの。」(42)

そして舞台でのセリーヌは，歌声だけではなく，アクションと語りで観客を「セリーヌの世界」に引き込むのである。「みなさんと，わたし。わたしたちは，分かりあっているわ。さあ，一緒にツアーをやるわよー。」舞台では，次の曲が始まる合間にギターやサキソフォンの奏者の真似をして動きまわり，拍子をとる。山場になると，大きく脚を広げ，右手で胸を打ち，大きく体を後ろに弓なりにして声を絞りだすのである(43)。そして，観客に語りかける時，気取ることなくプライベートな話をする。自分の大家族についても，よく話題にするが，「あの頃はテレビもないし，ラジオもなかったわ。何もすることがなかったじゃない？」と冗談を言うのである(44)。また，映画で虐げられた役をした時のことも，次のように話すものだから，聴く人はますますセリーヌを身近に感じるようになるのである。

「あのー，こんなこと話したらいけないのかも知れないけど……でも人間だったら当たり前よね。やっぱり言うわ。走っている時，あの，

---

(41) ボーノワイエ，前掲書，28ページ。

(42) Halperin, *op. cit.*, p. 23.

(43) Germain, *op. cit.*, p. 331.

(44) Dean, *op cit.*, p. 8.

ほんとに怖いときには，お漏らしをしてパンツを濡らすでしょ。英語で下品じゃない言葉があったかしら？　まあ，ともかく，ほんとうのことなんだから。」(45)

実際，セリーヌのライブ・ショーは，CDの歌を聴くだけでは決して分かることのないインパクトを持っている(46)。従来ドイツでは，セリーヌは商業主義的と批判的だったが，1996年のヨーロッパ・ツアーでは観客を完全に魅惑してしまい，「カナダの最も成功した輸出品で，90年代バーバラ・ストライザンドだ。あの生きている喜びが溢れるさまは，天性のものだ。」と言わせたのである(47)。スイスのコンサートでも同様で，「セリーヌは愛の使者だ。12,000人のスイス人は，すっかり虜になってしまった。」(48) と言った状況であった。

---

(45) Crouse, *op. cit.*, p. 35. 姪を見舞いに病院へ行った時なども，スターだからと言って，気取った様子は全然なかったとのことである。

「いつも，お化粧っ気もなしで，やってくるんですよ，ひっつめ髪で。とても，あのセリーヌ・ディオンとは思えませんでした。」と，ある入院患者の母親はいう。

「周囲にとても気を遣う人でね。なるべく目立たないようにしてましたよ」という証言もある。ボーノワイエ，前掲書，80ページ。

(46) 例えば次のビデオやDVDを見れば良く分かる。*CELINE DION — Live a Paris —*, Sony Music Entertainment (Canada) Inc., 1996. *Celine Dion — The Colour of my Love Concert*, Sony Music Entertainment (Canada) Inc., 1995.

(47) Halperin, *op. cit.*, p. 131.

(48) *Ibid.*, p. 132.

3．夢に向かって

セリーヌ・ディオンは，1994年12月，26歳で結婚する。その時に語ったのが次の言葉であるが，夢に向かって走ってきた様子が伝わってくる[49]。

> 「真剣に取り組んで,既に成功するのに必要なものを持ち合わせていれば，夢はかなうわ。これは，私の人生の物語でもあるの。私は必要な物は全てあったわ。自分には声があり，ルネもいたわ。そしてエディ・マルネイがよく言っていたように，私は幸運の星のもとに生まれたの。それでも，私には私の夢があるの。世界の大きな舞台で歌っている夢をみてきたし，今もみているわ。……結婚式の前に集めてくれた引用句の中にシャルル・ド・ゴールのがあったの。『栄光は，それを夢みて追い求めた者の所へのみ来る』というもので，私も自分の栄光を夢みていたと言えるわ。」[50]

この夢に向かって，12歳の時から「全ての知性，能力，エネルギーを，つまり生活の全てを」捧げてきたのである[51]。

マネジャーのアンジェリルは，「スターを目指すのであれば，ティーンエージャーの女の子が普通するようなお喋りや，デート，それにパーティに行ったりすること，こんな楽しみや体験は犠牲にする覚悟が必要だ」との考えであった。セリーヌはこのアドバイスに忠実に従ったのである。そ

---

[49] セリーヌとの結婚について，母親は，最初，落胆し，「信頼して娘を預けていたのに，ルネに裏切られた」と言った。王子様を待っていたのに，26歳も年上で，2度の離婚経験者に恋をするなんて。泣きながら出てゆき，ルネがセリーヌの人生を破壊し，同時に母親の人生をもそうすると信じていた。しかし，やがて2人がお互いを必要としているのが分かるのである。Germain, *op. cit.*, p. 247.

[50] *Ibid.*, p. 385.

[51] *Ibid.*, p. 245.

して，毎日歌の練習をし，自分の公演のビデオを見て，失敗した箇所を見つけては修正し完璧なものにしていったのである。物心ついてから，ずーっと歌手になることを夢見てきたので，「普通の女の子がする様々な事が出来なかったけれども，後悔はしていない」と語っている(52)。むしろ，アンジェリルにたいしては，「スターへの道を作ってくれたことに感謝しているし，そしてスターになるためには努力をおしまないわ」と述べている(53)。

しかし，いくら頭で分かっていても，夢に向かって日々努力を積み重ねていくことは容易なことではない。セリーヌの場合は，尊敬する両親が朝から晩まで休むことなく働いてきた様子を見て，「働くということ」がごく自然に体の一部となっていると言ってもよいだろう。ある所で，「なぜ，歌いつづけるのか」の質問を受けた時に，次のように答えている。

> 「両親がいかに一生懸命働いてきたか，自分たちで家を建てて，大勢の子供たちを育ててきたか，仕事をしている事が幸福であり生きがいであったか，私もそんな風に育ったのです。だから働かずに，ジッとしていたら具合が悪くなるの。」(54)

そして夢に向かっての何よりの挑戦は，21歳で初めて英語を習得するということであった。それまでは歌う歌は全てフランス語であり，フランス語しか話せなかったのであるが，英語圏とりわけアメリカ市場進出には英語が不可欠であったのだ。セリーヌは，ベルリッツで，6ヶ月間の集中英語特訓を受けることになる。1日9時間，週に5日の英語漬けである。最

---

(52)「このごろの子供たちは，遊びに出かけ，クラブにいってお酒を飲んだりタバコを吸ったり，ボーイフレンドと付き合ったりしたいでしょう。私はステージに立ちたかったから，早くベッドに入って寝なければならなかったの。全てのことを手に入れる訳にはいかないわ。どっちを取るかは決めなくっちゃ。」と，セリーヌは語っている。Grills, *op. cit.*, p. 46.

(53) McKay, *op. cit.*, p. 31.

(54) Germain, *op. cit.*, p. 42.

初は，混乱と戸惑いで全然分からなかったが，天性の耳のよさと頑張りで，そのうちに理解できるようになる(55)。当時のことをセリーヌは，次のように回想している。

「夢を叶えるためなら，私はどんな努力もするわ。英語が必要というなら，とことん勉強する。ベルリッツの特訓は，ちっとも辛くはなかった。楽しかったくらい！　ついこの間まで，英語なんてほとんど一言もしゃべれなかったのに，おかげで今は会話なら，まったく不自由しません。」(56)

これは，ちょっと強がりに聞こえるが，「あんなに覚えのいい生徒は，まれですね！」と，先生も舌を巻くほどの上達ぶりで，夢に向かって努力する様子が伺える(57)。英語で歌うだけなら比較的簡単なのだが，歌の内容を表現するようになるには，まだ，かなりの時間を要することになるのである。

英語で歌い始めてからも，全てのエネルギーを歌うことに捧げてきており，そこに強い意志と勤勉さを見ることができる。1990年のこと，歌いすぎにより声帯を痛めてしまったことがある。ニューヨークのかかりつけの医師は，3週間声を出さないようにとの指示を与えたのである。セリーヌは文字通り忠実に守り，マネジャーのアンジェリルや家族の者とのコミュニケーションは，サインや筆談で行ったのである。以後，コンサートの前には「ほとんど声を使って話さず」，コンサートには加湿器を2つ持ち歩く

---

(55) *Ibid*., p. 170,「2ヶ月の特訓で流ちょうな英語を身につけた」(ボーノワイエ，前掲書，p. vi) とか，「ベルリッツの3ヶ月の特訓授業を毎日受ける」とか期間に関して違いがある。それまで全く英語とは関係がなかったわけで，わずか2，3ヶ月で「流ちょうな英語を身につけ」ることは困難であろう。ここではセリーヌ・ディオン自身が認定した伝記により「6ヶ月間」とした。Germain, *op. cit*., p. 170.

(56) ボーノワイエ，前掲書，68ページ。

(57) 同上。

という生活をしている。毎日35分間声帯訓練をし，声帯には良くないのでタバコも酒も避けているのである[58]。

コンサートの回数を見ても，意志と体力と粘り強さが伝わってくる。1ヶ月間に，18回，19回とコンサートを行う月もあり，1988年にはツアーを含め，通算160回もの公演をこなしているのである[59]。ほぼ2日に1回の割でコンサートを開いており，ツアーの移動のことも考慮に入れれば，強靱な意志と体力であることには間違いない。

セリーヌ・ディオンは，「夢を達成するためには自己抑制と訓練が重要」だと常にはっきりと認識し，それは運動選手にも通じるものだと感じていた。1996年のアトランタ・オリンピックの開会式では，やはり同じように「一つの目的を達成するために犠牲と努力」を払ってきた世界のアスリート達を前にして，「夢はかなう」というメッセージを込めて *Power of the Dream* を歌ったのである[60]。

Feel the flame forever burn
Teaching lessons we must learn
The world unites in hope and peace
Pray that it always will be
It is the power of the dream that brings us here.[61]

Ⅳ. セリーヌ・ディオンを作り上げたもの

大家族という環境の中で，カトリックの両親により，音楽とともに育てられたということ ── これこそが，国際的スーパースターとしてのセリー

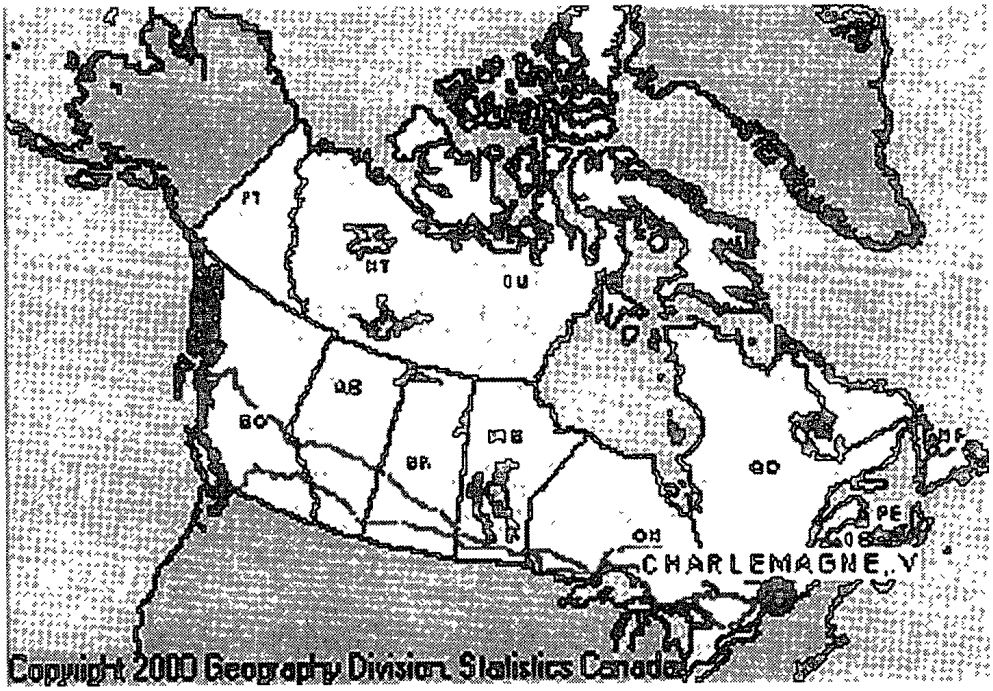
---

[58] *Maclean's*, June 1, 1992 (Vol. 105, No. 22), p. 42.
[59] Germain, *op. cit.*, p. 387.ボーノワイエ，前掲書，59ページ。
[60] Dean, *op. cit.*, pp. 56-57.
[61] Halperin, *op. cit.*, p. 11.

ヌ・ディオンを作り上げたものであり，その核となっているものである。つまり，セリーヌ・ディオンの「文化的基盤」であり，精神的拠り所であり，アイデンティティと言ってもよい。これこそが，セリーヌが夢に向かって進む原動力になったのだが，同時に，「進歩的ケベック」との間に波紋を引き起こすものでもあったのである。

1．大家族の中で

モントリオールから車で30分の所にある人口6,000人足らずのシャルルマーニュ（Charlemagne）という町がある。住民の約90%がフランス系で，98%がフランス語しか話さない。そして90%以上がカトリックである。95%以上がケベック生まれで，土地の人間であり，他所者が入ってくれば直ぐに分かる土地柄である。まさにフレンチ・カナダそのものであると言える地域である。その町の労働者が住む地区で，セリーヌ・ディオンは1968年3月30日に生まれた。母親のテレースが41歳になろうとした時のことである(62)。



(62) ボーノワイエ，前掲書。

このようなフレンチ・カナダの中でも，ディオン一家はとりわけ伝統的なフレンチ・カナダの生き方を現すものであった。まず，ディオン一家はカトリックであり，フランス語しか話さない。そして父親も母親も，ギャスペの片田舎で生まれ，大家族の中で育っている。後に，職を求めてシャルルマーニュに落ち着くことになるが，「自分たちの信じる暮らし方」を捨てることはなかったのである。セリーヌの母親が語っているように「子供を産み大きくなるのをみるのが楽しい」からであったが(63)，16人もの大家族を食べさせ，服を着せ，寝かせる場所を確保するだけでも途方もない事であり，毎日が格闘であったのは言うまでもない。そして，そのような大家族を可能にしたのは，何よりも父親と母親のカトリックとしての日々の生き方と価値観によるものである。

しかしシャルルマーニュにおいてすら，セリーヌ・ディオンが生まれた頃には，カトリックの「大家族」はむしろ珍しい存在になっていた。「静かなる革命」によって，「古い伝統的ケベック」は「忘れ去るべき存在」となっていたのだ。ディオン一家は，「一世代遅れて『古いケベック』を象徴する家族」であると言えるであろう。時代に逆行する大家族ではあっても，この大家族こそが，セリーヌにとって，精神的拠り所となっているのである。セリーヌが生まれた時には，既に8人の姉たちと5人の兄たちが存在していた。セリーヌは14人目の子供であり，総勢16人の大家族となる。セリーヌが生まれた時，一番上の姉は22歳で，下は双子の姉と兄で6歳になろうとしていた(64)。生まれた時から，そこには既に15名の「ディオン一家」という小さな社会が存在していたのである。そして，セリーヌ・ディオンの場合，このような大家族の末っ子として生まれたことは，他の兄弟姉妹は競争相手ではなく，むしろ自分を可愛がってくれる年長者であり，見守り

---

(63) Germain, *op. cit.*, p. 17.

(64) *Ibid.*, p. 18. 父アドエマールは1923年3月生まれ，母テレースは1927年3月生まれ，セリーヌの13人の兄姉は1946年から1962年の間に生まれている。McKay, *op. cit.*, p. 23.

庇護してくれる人たちであったのである。

セリーヌが子供の頃のことを次のように述べている。

「貧しいわけではなかったけど,子供が3人4人と同じベッドに寝たわ。とてもおもしろかったわ。欲しいものは,何でもあったわ。愛情,思いやり,分別のある両親,そして音楽。生活に音楽があれば幸せな気分になれるの。」(65)

セリーヌにとっては,家族といることが一番なのである。

好むと好まざるとにかかわらず,大家族でしかできない事がある。16人もの大家族が,全員で週末などに友人や親戚を訪れることは,難しいと言うよりも事実上不可能なことであった。バスを借りる以外に移動は難しいし,何よりも16人分の食事を外でするなどということは,普通では出来ないことである。それで,セリーヌの家に友人親戚が集まることになり,セリーヌの母は自慢の料理でもてなすことになる(66)。こうして,いつも家族は一緒であったのである。

18歳の誕生日を前にして,豪邸を建て両親兄姉たちと暮らしていたセリーヌは,「独立して一人住まいはしないんですか?」と記者会見で尋ねられたことがある。これに対して,「いいえ。そんな気はまったくありません。私は家族から離れたくないの。家族といると,とても安心するんです。」と答えている(67)。

これらの言葉から,セリーヌにとって家族が心の安定の基盤であったことが理解できる。家族と一緒にいること,一緒に食卓を囲み,それぞれの得意な楽器を弾いて音楽を作り出すこと ── こうして一体感と充実感が共

(65) Dean, *op. cit.*, p. 11.

(66) *Ibid.*, p. 10.

(67) ボーノワイエ,前掲書,43ページ。

有されるのである[68]。まさに，アイデンティティであり，体の一部となっていると言ってもよい[69]。そして，セリーヌ自身，このような大家族の中で育ったことを，世界の各地の公演先でファンの前で話しているように，むしろ非常に誇りに思っているのである。

2．音楽と共に

セリーヌにとり，大家族の持つ価値観が体の一部になっているのと同様に，音楽も生活そのものであったと言える。セリーヌが生まれた時から，そこには家族とともに常に音楽があったのである。言葉を憶える前に音楽があったのである。音楽は，セリーヌの体の一部になっていると言っても良いだろう。

そもそも，セリーヌの両親が出会ったのも，村の祭りで行った即興音楽を通じてである[70]。そして，セリーヌという名前も，母親が妊娠中，当時

大家族の中で

---

[68] Dean, *op. cit.*, p. 14.

[69] *Ibid.*, p. 7.

[70] Halperin, *op. cit.*, p. 14. 先祖は1600年代にフランスからケベックに移民としてやってきて，代々音楽好きとのことである。*Ibid.*, p. 13.

ケベックとフランスで流行っていた『セリーヌ』という曲から取ったものである[71]。

そして，家族の誰もが楽器を手にして，日々の生活の中に音楽があり，音楽が日常生活の一部分であった。セリーヌは次のように語っている。

「父はアコーディオン，母はヴァイオリン，長姉のデニーズはヴォーカル。オルガンを弾く子あり，ギターの子あり，ドラムス担当もいて，カントリー・アンド・ウェスタンからフォークソングまで何でもありよ。やっと歩けるくらいから，わたしも真似ごとのように歌いはじめたわ！」[72]

セリーヌの家族は，セリーヌがまだ小さかった頃，*The Dion Family*（『ディオン一家』）を結成して，家族全員で演奏に出かけていたことがある[73]。結婚式で演奏したり，孤児院でコンサートをしたり，地元の催し物などに出演するのである。もちろん家計の足しになるわけだが，家族のみんなは人前で演奏するのが大好きであったのだ[74]。その時のことを，セリーヌは「私は，ケベックにある全てのダンスホールで眠ったわ。母のコートの下で眠ったものだわ。」と述べている[75]。ディオン一家にとって，まさに音楽は無くてはならないものであった。その当時のことを，セリーヌは次のように回想している。

「お金は無かったけど，みんな幸せだったわ。だって音楽で思っていることを表すことができたんですもの。家族の中で，誰かが泣きだしたり，落ち込んでいる時には，父がアコーディオンを弾きだして，そ

---

[71] Germain, *op. cit.*, p. 16.

[72] ボーノワイエ，前掲書，5ページ。

[73] McKay, *op. cit.*, p. 18.

[74] Dean, *op. cit.*, p. 11.

[75] *Ibid.*, p. 15.

うしたら，みんな楽しくなれるの。」(76)

The Dion Family

まるで,「庶民版トラップ一家」とも言うべき家族が目の前に浮かんでくるようである。

そして後に両親はパブ『古い樽』を経営することになるが，そこでは家族ぐるみで演奏し，セリーヌも5歳からテーブルの上でジネット・レノの歌などを歌うようになる。9歳になる頃には，夜も家族と歌っていたので，学校では眠ってばかりという状態であった。授業が分からないだけではなく，友達もなく，八重歯のために「吸血鬼」とからかわれて学校嫌いになるのである(77)。「学校なんか，大嫌いだったわ――つまらなくて。下校のベルが鳴ると，すっとんで帰ったものよ。一刻も早く，歌いたかったから」とセリーヌは述べている(78)。学校が終わると，走って家に帰り，地下室での家族のリハーサルに加わるのである。セリーヌの頭の中には，家族と一緒に歌うことしかなかったのである。学校では「眠って夢ばかり。何にも習わなかったわ。私にとって，歌うことがほんとうの生活だったんだもの。」とセリーヌは述懐している(79)。このように，セリー

---

(76) Halperin, *op. cit.*, p. 19.

(77) Grills, *op. cit.*, p. 30. McKay, *op. cit.*, p. 31.

(78) ボーノワイエ，前掲書，7ページ。

(79) Grills,, *op. cit.*,p. 32.

ヌにとり学校は決して心地よい居場所ではなかったが，それに反して家族と一緒に音楽をすることが喜びそのものであったのだ。音楽が家族の絆をつくり，みんなで演奏することにより，さらにその絆が強まっていったのである。

このような大好きな家族に対するセリーヌの思いは，次の言葉にもはっきりと表されている。

> 「兄や姉たちも随分と頑張ってやってきたわ。私が一番歌がうまいわけではなかったけど，成功したのは一番運が良かったからだわ。でも，これが運命だと思うわ。どうして私で，他の人たちでなかったの，って思うこともあるわ。ほんとうに運が良かっただけで，みんなと一緒に味わいたいの。」(80)

そして，「30になるまでにはスターになって，家族と一緒にコメディーをやりたいの。兄や姉たちに自分たちの夢を演じてもらいたいの。」とも語っている(81)。

セリーヌに家族との関係を，はっきりと自覚させるようになったのは，母が心臓病で倒れた時のことであった。セリーヌが生まれた時には，既に15人の家族は存在しており，セリーヌはこの家族の愛情を受けて育ってきたのである。それは，一番年下のセリーヌが，両親はもとより兄や姉たちの死を看取らねばならないということを意味している。そして，老いゆく「両親の面倒と，多分，家族全体の面倒をみることも，自分の義務だ」と思ったのである(82)。実際，1990年にケベック州内に25のニッケルズという名のレストランを出して，兄や姉たちを店舗の責任者にして経済的にやってい

---

(80) Halperin, *op. cit.*, p. 147.

(81) Grills, *op. cit.*, p. 46.

(82) Germain, *op. cit.*, p. 214.

けるようにしている[83]。また，ある年のクリスマスには，13人の兄や姉たちの一人一人に10万ドルのクリスマス・プレゼントを贈り，両親へのプレゼントを含めて，何と総額200万ドルのプレゼントを贈ったのである[84]。

3．母親への愛と尊敬の念

セリーヌは，母親テレースに対しては絶対的な信頼をおき心から愛している。「母のことは尊敬してるわ。私のアイドルよ。」とも述べている[85]。セリーヌの大好きな大家族という集団の中心にいたのが母親であり，家族の強い絆を作り上げたのも母親の力が大きい。父も母も一日中働いたし，また働かなければならなかったのだが，母親は妊娠中も，毎日，金づちを手にして梯子を登り，夫と一緒に自分たちの家を造ったのである。「母はお腹に赤ん坊がいる時でも，家族の世話をして母親としての責任を果たしてきたわ」とセリーヌは誇らしげに語っている[86]。16人の家族の食事を作り，服も手作りで，セリーヌが12歳で最初のテレビ出演をした時のドレスも母親の手作りのものであった[87]。母親が3度の食事を作り，毎食，家族全員が台所の大きなテーブルを囲んで食事を楽しむのがディオン家の習慣であった[88]。その裏には，当然何とかやりくりして16人に食べさせなければならないという事情があった。しかし，母親の存在と行動が，貧しくとも陽気で家庭的な雰囲気を作り出していたのである。事実，セリーヌがプロの歌手となって売り出す切っ掛けを作ったのは母親なのである。既に簡単に触れたように，11歳の時に，母親はセリーヌと共に *Ce n'était qu'un rêve*

---

(83) Dean, *op. cit.*, p. 54. ボーノワイエ，前掲書，64-6ページ。

(84) Halperin, *op. cit.*, pp. 146-147.

(85) Dean, *op. cit.*, p. 15. Halperin, *op. cit.*, pp. 186-187.

(86) Grills, *op. cit.*, pp. 28-29. Crouse, *op. cit.*, p. 5. もちろんセリーヌ自身が母親のお腹にいる時に，こんな事が分かるはずはない。この事からも，後に述べるように，家族の歴史がセリーヌに語り伝えられている様子がよく分かる。

(87) Halperin, *op. cit.*, pp. 16-17.

(88) Dean, *op. cit.*, p. 11.

*(It was Only A Dream)*を書き，家族で地下でデモテープを制作して，ジネット・レノのマネージャーのアンジェリルに送った時に，全てが始まったのだ(89)。このエネルギーと行動力にあふれる母親がいなければ，「ケベックの歌姫」の誕生もありえなかったのである。

セリーヌは，母親に対する気持ちを歌に託して，次のように歌っている。

時が経ち，
あなたの銀色の髪は白くなる。
でも，ずっとあなたの子供よ。
私の人生の終わる日まで。
そんなにも，あなたのことを愛しているから。
(*Tellement j'ai d'amour pour toi*)

この歌は1982年にレコーディングされ，フランスではゴールドレコードとなった。レコーディングに立ち会ったプロの者でさえ，母親への想いを歌うセリーヌの歌に余りにも感動したので，次のレコーディングは1時間遅らさねばならなかった程であった(90)。

セリーヌの場合，一番下だったため，他の兄弟姉妹と比べて母親と一緒に過ごした時間が圧倒的に多い。とりわけ12歳でプロになってからは，公演に出かける時はいつも母親が一緒であった。そして，母と娘は，家族のこと，何が大事なのかということ，神様のことなどについて話し合うのである。ある時，母はサンドイッチを作りながら，セリーヌに母が子供時代を過ごしたサン・ベルナール・デ・ルックの田舎の話を聞かせたことがある。

---

(89) Grills, *op. cit.*, p. 33.

(90) Germain, *op. cit.*, pp. 122-123.

「マスが泳ぐ川，ブルーベリーを摘んだこと，野兎に罠をしかけたことなど。そして，母が，お金を大切にすること。それは誰かの労働と時間と努力の結果なのだから。だから，道端に落ちている小銭は拾うわ。幸運なことよ。そして，父は昔，バラバラになった木の十字架があると，くっつけて元通りにしておいたものよ。今では木でできたものは，見かけなくなったけど。」(91)

こうして，尊敬する母親より，母や父がどのように生きてきたかを伝えられ，家族としての一体感を強めるのである。

そして，セリーヌの次の言葉には，母親や神様が彼女にとり，どのような存在であったのかについて，窺い知ることができる。

「天国に行ったら神様に言ってもらいたいの。母がするように，何も言わないで，見てもらっていたいの。そして，目で言ってもらいたいの。全て完璧で言うことがないよって。そして，『おまえのことを誇りに思っているよ，わが子よ。』ってね。」(92)

このようにセリーヌの普段の生活の中に，母親を思う気持ちがあり，神様の存在があったのがよく分かる。

4．「古い伝統的ケベック」が起こした波紋

セリーヌ・ディオンに見られる「古い伝統的ケベック」が，明確な形で波紋を起こしたのは，1984年9月ローマ法王ヨハネ・パウロ2世がモントリオールを訪れた時のことであった(93)。

---

(91) *Ibid*., pp. 332-333.

(92) *Ibid*., p. 324.

(93) ケベック州は住民の圧倒的大多数がカトリックであり，バチカンの北アメリカにおける重要な拠点である。

法王の訪問は，ケベック州政350周年を記念する重大な行事の1つであった。そしてセリーヌ・ディオンが，法皇を囲む青少年集会の司会に抜擢されオリンピック・スタジアムにおいて法皇の前で*La colomb*(『鳩』) を歌ったのである。

パウロII世と

Une colombe est partie en voyage.
Autour du monde elle porte son message
De paix d'amour et d'amitié.

(A dove set out around the world.
It had a message in its heart
Of peace and love and joy.)[94]

鳩に託して平和の願いを歌ったセリーヌは，法皇と6万5千人の若い聴衆を感動させることになる。翌日には，この歌がケベック中で持ち切りになり，シングルカットされた『鳩』は空前の売れ行きとなる[95]。

パウロ2世の前で歌うことは，伝統的なカトリックとして古いケベックの価値観を信じるディオン一家にとっては最高の名誉であり，容易に信じ

---

[94] *Ibid*., pp. 149-150.

[95] ボーノワイエ，前掲書，25，33ページ。10月15日，フェリックス賞，ベストセラーアルバム，最優秀女性歌手の2つを受賞。Germain *op. cit*., pp. 151-152.

られない出来事であった[96]。セリーヌ自身も,「あのときは,ほんとうに緊張したわ。私の声には,少しトレモロがかかることもあるけど,声じゃなく,足のほうにトレモロがかかっちゃって……」と,その時の気持ちを述べている[97]。セリーヌの母親は,自分の娘が法皇のために歌うなどは到底信じられず,「誰かがからかっているんだ」と語るほどであった[98]。法皇の前で,14人兄弟姉妹の末っ子で,カトリックを信仰し,フランス語しか話さないセリーヌが歌うということは,まさに「伝統的ケベック」そのものであると言える[99]。同時に,セリーヌにとっては,カトリックという文化的基盤を基に,フランス語で歌う「歌」により,ケベックという範囲を越える可能性を秘めていたのも事実である[100]。

このような事は,普通はケベック以外では問題にはならないことであろう。ところが,カトリックで大家族出身のセリーヌが法皇の前で歌うということ,このことは「古いケベック」を象徴的に表しているが故に,進歩的知識人にとっては我慢のならない事であり非難すべき事なのである。「静かな革命」を進めてきた知識階層のケベックの人々にとっては,セリーヌ・ディオンの両親が共にハイスクール中退で,カトリックで14人も子供がいるという事実は,「近代化を妨げるもので,とっくに葬り去られているべき過去」の遺物そのものであった[101]。そして,また,「労働階層の出身の田舎者」が法皇の前で歌ったということで,以後,しばしば「風刺の対象」とされることになる[102]。まさに,多くの人々が縁を切りたい「古いケベック

---

[96] Germain, *op. cit.*, pp. 149-150.

[97] ボーノワイエ,前掲書,25,33ページ。

[98] Germain, *op. cit.*, pp. 149-150.

[99] Grills, *op. cit.*, p. 8.

[100] 例えば,1985年10月,再びパウロ2世にローマで会うことになる。Grills,, *op. cit.*, pp. 48-49.

[101] *Ibid.*

[102] Halperin, *op. cit.*, pp. 44-45.

のシンボル」であったのである[103]。ここに,「伝統的ケベック」対「アンチ・伝統的ケベック」の対立を見ることができる。進歩的文化人や知識階層から見れば,セリーヌは洗練されてはいないし,教育も受けてはいない。話し方も文法的にはおかしいとこだらけである。インテリたちにとっては,例えセリーヌがフレンチ・カナダやフランスで100万枚以上のCDを売り上げたとしても,ケベックを代表するのは,もっと洗練された者であるべきなのである[104]。

このように,セリーヌ・ディオンが代表する「古いケベック」を蔑視する「進歩的ケベック」の存在が,長年にわたりセリーヌの前に越えなければならないボーダーとして存在することになるのである[105]。

V．国際的ポップスターを目指して

セリーヌ・ディオンが20歳の時,英語圏へ進出するという重大な決意を促す出来事が起こる。それは1988年5月のこと,アイルランドのダブリンで開かれたユーロヴィジョン・ソング・コンテストでグランプリを獲得した時のことであった。このユーロヴィジョン・ソング・コンテストは,テレビで放映され,ケベックの100倍にあたる6億の視聴者が見るイベントで,アカデミー賞,オリンピックの開会式などに次いで,世界的に注目されている[106]。Abba,ナナ・ムスクーリ,オリヴィア・ニュートンジョン,フリオ・イグレシアスなども,このユーロヴィジョンを足場にして世界に登場していったのである[107]。

ユーロヴィジョンでの優勝はカナダのマスコミでも大きく取り上げられ

---

[103] Dean, *op. cit.*, p. 32.

[104] Germain, *op. cit.*, pp. 153-154.

[105] *Ibid.*, p. 214.

[106] *Ibid.*

[107] Crouse, *op. cit.*, p. 37.

たが[108]，これが変身の契機となったのである。ユーロヴィジョン・コンテストの終了後，セリーヌは英語のインタビューを受けることになるが，英語が分からず相手の言っていることが理解できない[109]。フランス語圏を越えて，国際的なポップスターになるには，英語が必要不可欠なのである。しかも英語で歌うだけでは十分ではない。国際的な舞台で活躍するには，ハリウッド，ニューヨーク，ロンドンの業界の人々やマスコミを相手に英語でやり取りをし，インタビューにも答えなければならないのだ。つまり，英語を理解し話さないとならないということを意味している[110]。こうして既に述べたように，セリーヌはベルリッツで6ヶ月間の集中英語特訓を受けることになるのである。このような大転換と決意の裏には，もちろんセリーヌ自身の強い欲求とマネジャーのアンジェリルの戦略とが存在してはいたが，カナダCBSレコードの強い要請があったのである。セリーヌは，既に1987年にカナダCBSレコードへ移籍しており，契約金も100万ドルという高額で，100万枚売れる歌手になるように期待されていたのである[111]。CBSの社長はアンジェリルに明確に注文をつけていた。

> 「完璧な英語で，歌わせてください――これだけは，お願いします。もちろん，セリーヌの歌には，絶大な信頼をおいていますし，音楽に国境はないともいう。ですが今，世界の共通語は英語だ。少しでもフランス訛りがあれば，ローカルだと判断されて，売れ行きにお大いに響くのです。」[112]

---

[108] ボーノワイエ，前掲書，53ページ。

[109] Dean, *op. cit.*, pp. 24-25.

[110] Germain, *op. cit.*, pp. 169-170.

[111] McKay, *op. cit.*, p. 38. 契約金は，最初のアルバム2枚について100万ドル。CBSが外国人歌手に申し出た契約金としては，会社創設以来の最高額である。ボーノワイエ，前掲書，52ページ。

[112] ボーノワイエ，同上，67-68ページ。

ところが1990年の，その時期に英語で歌うということは，とんでもないことであったのだ。

1．逆風の中で

セリーヌ・ディオンが生まれ育った時期は，丁度ケベックがナショナリスティックになり連邦政府と対決の姿勢を取り始めた時期と一致する。セリーヌ・ディオンは1968年に生まれたが，その年には，カリスマ的なフレンチ・カナディアンであるトルードーが首相に就任した年であり，同時にケベックでは「分離独立して主権連合を」と主張するレネ・レベックがケベック党を結成した年でもあった。ケベックでは「静かなる革命」が急進的な方向に変化していった時期なのである。1970年には，いわゆる「10月危機」が発生する。ケベック解放戦線（FLQ）は力による社会変革を叫んで，イギリスの外交官とケベック政府の大臣を誘拐し，爆弾を炸裂させ，そのためにケベックが戦時法制化におかれたのであった。このような状況の下，1976年にレネ・ルベックがケベック州の首相になる。1980年に「カナダからの独立」に関する州民投票を行い，40%が賛成であった。そのような中で，トルードー首相は，ケベックの立場を考慮しながらも，ケベックの賛成がないままの状態で，ケベック州以外の9つの州とオタワ政府との賛成により，1982年にカナダの自主憲法を成立させたのである。1984年，マルルーニー首相は，ケベックを加えて新憲法を修正すると約束する。ケベック州政府は，連邦制度の中でケベックに「特別な地位」とより多くの権限を与えるように要求。これに基づいた取り決めがミーチレーク協定と呼ばれるもので，1990年6月23日までに，連邦議会と全ての州議会で承認を得られれば成立することになっていた。そして，1990年6月初めまでに，マニトバ州とニューファンドランド州以外の8つの州は承認を与えた。マニトバ州，ニューファンドランド州では首相が交代したこともあり，前任者の決定には拘束されないという雰囲気であった。マニトバ州議会では期限までに投票が行われず，ニューファンドランドの首相は，マニトバが期限内に投票をしないのなら意味がないとして，ここにミーチレーク協定は

調印されずに葬り去られることとなったのである。つまり，ケベックの主張してきた「特別な地位」を，英語圏のカナダは拒否したということを意味していたのだ。

セリーヌ・ディオンが，1990年に英語のアルバム『ユニゾン』を出そうと考えたのは，まさに，このような時期であったのである。英語で歌うことなど，当時は他の誰も考えもしなかった事である。たとえ考えたとしても，実行するほどの勇気を持っている者はいなかったのである。その時の模様を，『ビルボード』のラリー・ルブランが次のように述べている。

「当時，セリーヌが英語を習い，イングリッシュ・カナダに出ていくこと，これは大問題だったよ。だって，ケベックではナショナリスティックな感情が高まり，主権問題が出ていた時なんだ。セリーヌが英語で歌うということ自体が問題であったのだ。ケベックの歌手は，英語かフランス語で吹き込んだものだが，英語とフランス語の両方というのは，ほんとうに稀なことなんだ。そりゃ，50年代とか60年代には，ピエール・ラロンとかジネット・レノとかはやったけど，70年代とか80年代になると，そんな事をすると大問題になったよ。80年代後半は，もちろんの事だよ。英語で歌って，英語圏で聞いてもらおうなんて素振りを見せるのも，そりゃ大変勇気のいることだったよ。ほんとうに，大変な勇気がなけりゃ出来やしない。何人かは，そんな風に英語で歌いたいという歌手もいたけど，実際にやってみるガッツを持った者はいなかったよ。そんな事をすると，ケベックのファンを失うことになり，みんな怖じ気づいたってわけなんだ。」(113)

2．英語圏へのボーダーを越える

このような状況の中で，セリーヌ・ディオンにとり初の英語アルバム *Unison*(『ユニゾン』)が発売されることになる。この時期にセリーヌ・ディ

(113) Grills, *op. cit.*, p. 63.

オンが英語のアルバムを出すということは，単に一人のケベックの歌手が外国語で歌うということではなく，既に触れたように非常に重大な意味と影響を持つものであった。ビジネス的成功を目指すCBSソニーにとっても大冒険であったし，何よりもセリーヌにとてはケベックとの関係が破滅に至る恐れもあったのである。そして英語の能力がまだ不十分なセリーヌにとっては，精神的に押しつぶされそうな重圧感を味わっていたのである。何度もビルの屋上から地面に落ちていき激突寸前に目が覚めるという夜が何日も続いたと語っている(114)。

セリーヌ・ディオンがカナダの英語圏で受け入れられるかどうかは，全くの未知数であった。ケベックとフランスではトップ・スターになっていたものの，カナダの英語圏では，プロデューサのほとんどがセリーヌの事は知らなかったのである。セリーヌの名前とスペリングを教えねばならないほどであった。同じカナダという国にありながら，カナダの英語圏はフランス語圏にたいして無関心であった。言葉と文化の違いが英語圏とフランス語圏を分断していたのである(115)。カナダ国内ですら，このような状況だったので，セリーヌをカナダとアメリカで売り出そうとする試みは大冒険であった。さらに，セリーヌの英語も十分ではなかったので，「英語圏で成功すると考える者はほとんどいなかった」という状態であった(116)。

英語圏で受け入れられるには，国際的な「商品」となる必要があった。例えば，ソニーは戦略上，アルバムのセリーヌという名前をフランス語から英語のスペリングに変えたのである。こうして，フランス語のCélineと綴る名前からアクセント記号が省かれ，英語流にCelineとなったのであ

---

(114) *Maclean's*, June 1, 1992 (Vol. 105, No. 22), p. 42. 次のように，ケベックでの影響を一番恐れていたのである。"Nevertheless, the potential for disaster in English classes paled in significance to the possibility of a Quebec backlash over what some might interpret as her betrayal of her own language and culture." Grills, *op. cit* , p. 62.

(115) Germain, *op. cit.*, p. 280.

(116) Halperin, *op. cit.*, p. 51.

る。そして,かつての少女歌手のイメージが脱ぎ捨てられ,セクシーなポップ歌手のイメージで再登場するのである。こうして,ソニーは『ユニゾン』に100万ドルを投資して売り出すことになる(117)。

英語で歌い,カナダの英語圏とアメリカ市場に進出することは,普通は,何ら大騒ぎすることではないし,大した問題になることでもない。しかし,セリーヌ・ディオンが英語で歌うという「行為」は,まさにフレンチ・カナダの文化とアイデンティティとに関わる大問題なのであった。セリーヌは,フランス系カナダ人のシンボルであり,英語で歌うこと自体が「裏切り行為」と見なす人々がいたし(118),セリーヌのフランス語のスペリングを英語流に変えることも非難の対象になったのである(119)。おまけに,上述のように時期的には最悪であった。イングリッシュ・カナダとケベックとの間の妥協策ミーチ・レーク協定が失敗に終わった時であり,ケベックがカナダの中で孤立感を実感していた時なのである。そして,勇気ある行動に出たセリーヌ自身も,「高層ビルから落ちる悪夢を見る日が続く」という不安な毎日を送っていたのであった(120)。

実際,『ユニゾン』の発売に関して,ケベックでは「英語でアルバムを作ることは裏切り行為である」と報道される。英語で歌うことは,「伝統的なルーツを共有しているケベックのファンにとり裏切り行為」と受け取られ

---

(117) Crouse, *op. cit.*, p. 54.

(118) 英語で歌うことは,伝統的なルーツを共有しているケベックのファンにとり裏切り行為を意味しているのである。Dean, *op. cit.*, pp. 24-25.

(119) *Maclean's*, June 1, 1992 (Vol. 105, No. 22), p. 41. Dean, *op. cit.*, p. 31. 1988年6月24日,セリーヌはセン・ジャン・バプティスト・デイにトロントのフレンチ・コミュニティーに招かれたことがある。トロントは英語圏であり,そこのフレンチ・コミュニティーの人々は普段は英語で仕事をしている。しかし,マネジャーのアンジェリルは参列していたソニー・カナダとソニー・USAの大物たちにセリーヌの英語の歌を聴かせようとしたが,フレンチ系の聴衆から大不評を被ったのである。Germain, *op. cit.*, pp. 221-222.

(120) *Maclean's*, June 1, 1992 (Vol. 105, No. 22), p. 42. Grills, *op. cit.*, p. 62.

るのである[121]。このような反応は，感情的なものであるだけに，その対応の仕方が難しいものである。

CBS・カナダのバーガー社長は，まずモントリオールで次のように釈明しなければならなかったのである。

「残念ながら，国際的に通用するのは英語であり，それで英語で制作したのです。これで世界のトップのプロデューサーと仕事ができるようになる。」[122]

セリーヌ自身は，英語で歌うことはケベックから離れるという意味ではなく，むしろセリーヌの音楽的可能性を広げるものであるということを，次のような言葉で述べている。

「私のことを知ってもらいたいの。だから，最初の英語のアルバムを作っているの。」[123]

「私の血の中にはフランス語が流れていて，特別な何かを表現できるわ。でも，英語も音楽を伝える言葉なの。英語そのものが，音楽だわ。フランス語はロマンチックな気持ちを表現できる……だから，どちらか一つを選ぶことなんてできない。」[124]

このように，ケベック内において英語で歌うことに対する感情的反撥はあったものの，1990年4月に『ユニゾン』がケベックで発売直後にプラチナ・アルバムになるのである。さらに，『ユニゾン』はアメリカでの最初のゴールド・レコード（発売後数ヶ月で50万枚を売る）になる[125]。1991年

---

[121] Dean, *op. cit.*, pp. 24-25.

[122] Crouse, *op. cit.*, p. 41.

[123] *Ibid.*, p. 42.

[124] Dean, *op. cit.*, pp. 31-32.

[125] Halperin, *op. cit.*, p. 65.

4月までに『ユニゾン』は70万枚の売り上げを記録する[126]。このように，ケベック内での予想に反した人気や，アメリカでの売り上げは，「歌詞が英語で書かれていようと，セリーヌの声は文化のバリアーを越えた」[127]と言ってもよいものであった。さらに，1,600人が集まった祝賀レセプションの記者会見で，セリーヌは英語で受け答えをし，「単に英語の歌を歌っているだけではなく，歌詞を理解し，表現している」とう印象を与えたのである[128]。そして，この後も，「私は世界中，どこの国のファンにも公平にしたいの。私の出身はケベックで，自宅があるのもケベックです。アメリカばかりに行くつもりはないわ。」[129]と述べ，ケベックの人々にその気持ちを伝えたのであった。しかし，この問題は形を変えて出てくることになるのである。

3．私は英語圏の歌手ではない

1990年10月のこと，セリーヌはケベックではじめての英語のコンサートと『ユニゾン』のツアーを予定していたが，モントリオールのツアーは，声が枯れたため，10月23日まで延期することになる。丁度この時期に，ADISQより〝Best English-Language Female Singer〟「最優秀英語部門女性歌手」に選ばれ，これが，またまた問題となるのである[130]。

ADISQによるフェリックス賞は，ケベックでは最高の音楽に与えられる賞である。セリーヌ自身も1983年以来，ベストセラー・ソング，ベストセラー・アルバム，最優秀ポップアルバム，最優秀女性歌手など，様々な部門で15のフェリックス賞を受賞してきている。そして，それまでのよう

---

(126) ボーノワイエ，前掲書，73ページ。

(127) Crouse, *op. cit.*, pp. 42-43.

(128) ボーノワイエ，前掲書，69-70ページ。

(129) 同上，73ページ。

(130) これまでたびたび出てきたADISQとは，正式にはL'Association Québécoise de l'industrie du disque, du spectacle et de la vidéoという組織の略称である。http://www.adisq.com/

に，〝Best Female Singer〟であれば何ら問題は起こらなかった。

しかし，これに〝English-Language〟という言葉がつくことで，様々な問題を引き起こすことになる。ケベックでの発売直後にプラチナ・アルバムになった『ユニゾン』に対して，ADISQは〝Best Singer〟や〝Best Female Singer〟の賞を与えるかわりに，この〝Best English-Language Female Singer〟「最優秀英語部門女性歌手」賞にノミネートするのである。

(1) 「最優秀英語部門女性歌手」賞辞退

10月21日，日曜日の夜，ADISQによる受賞式典の会場で，セリーヌ・ディオンは「最優秀英語部門女性歌手」賞の受賞を辞退するのである。その理由を，次のように語っている。

> 「私は英語圏の歌手ではありません。みんなも知っている通りだわ。私は世界のどこへ行っても，ケベック人であることを誇りに思っていると言っているわ。」(131)

さらに，「最優秀英語部門歌手」という部門が「国際的に最も活躍したケベックの歌手」という部門に変えられるべきだ，とも述べており，その賞であれば受賞辞退という事は起こらなかったのである(132)。これらの発言から，セリーヌ・ディオンのメッセージは明確である。英語で『ユニゾン』を歌ったからと言って，英語系の歌手になるわけはないのである。心はケベックなのである。セリーヌはそれまでにも繰り返し，「私はケベック人で，そのことを誇りに思っているわ」とはっきりと述べてきている。だから，「私が歌っているのが英語だからという理由で，46部門の賞のうちの45部門から私が除外されたということなんだけど，馬鹿げたことだわ。だから受賞

---

(131) Paul Delean, "Dion turns down English-artist Felix," *Gazette*, Montreal, 1990.10.22 (D5).

(132) *Ibid*.

辞退を後悔することなんてないわ。」ということなのだ[133]。そして，受賞するということは，セリーヌがイングリッシュ・カナダに属するという意味合いを持ち，同時に，フランス語のファンを見捨てるという意味合いを持つことになるのである。フランス語のマスコミは，授賞式が間近になってくると，「セリーヌは『最優秀英語部門女性歌手』賞を受賞したら，一体，英語で泣くのだろうか？」などと書き立てる様な状態であったのである[134]。

しかし，時は日曜日の夜。受賞辞退の様子がテレビで流されると，セリーヌ・ディオンの意図とは関係なく，言葉に関する事柄が極度にセンシティブになっているケベックで，大騒動を引き起こすこととなるのであった。

(2) ケベック党賛辞する

まず，分離独立を主張するケベック党の党首ジャック・パリゾーは大いに賛辞の言葉を送ったのである。

> 「セリーヌのやったことは，とても立派だった。あの歳の女性にしては，なかなか言えないことだよ。もう感激して，そのことを手紙でも送ったよ。」[135]

つまり，「最優秀英語部門女性歌手」賞の辞退は，イングリッシュ・カナダを拒否し，ケベック分離独立派の立場に賛成だと見なされることになるのである。と言うことは，もしセリーヌ・ディオンが「最優秀英語部門女性歌手」賞を受賞していたとすれば，その時はその時で，ケベック分離主義者からは「裏切り者」として非難されることを意味しているのである。一

---

[133] Grills, *op. cit.*, pp. 63-64.

[134] Delean, *op. cit.*, (D5). Crouse, *op. cit.*, p. 48.

[135] Philip Authier, "Parizeau hails Dion's stand, others cool" *Gazette*, Montreal, 1990. 10. 24 (C7).

般の人々は，ケベック分離独立派の人々ほど極端な態度を取らないものの，セリーヌの受賞辞退という行為は納得できるものであった。視聴者参加番組では，ADISQがセリーヌを「英語部門」にノミネートしたこと自体，セリーヌを侮辱するものだとの意見が多く寄せられたのであった(136)。

(3) イングリッシュ・ケベクワーの不満

しかし，これで問題が終わるほど，事は単純ではなかったのである。セリーヌの「最優秀英語部門女性歌手」賞の辞退により，精神的に不快感を与えられた人々もいたのである。それは，モントリオールの英語系の人たちであった。彼らは，フランス語圏のケベックの中ではマイノリティである。しかし，彼らも自分たち自身を「ケベクワー（ケベック人)」だと考えているのである。彼らにとって，「ケベクワーとは，話す言語とは関係なく，ケベックに住んでいて，ケベックにアイデンティティを持っている人たち」なのである(137)。その人たちにしてみれば，まさに自分たちの存在を侮辱されたと感じたのである。モントリオールで唯一の英語紙『ザ・ガゼット』は，それらの人々の声を載せ，そのショックの様子を伝えたのである。「セリーヌが，英語が自分の言葉ではなく，自分はケベック人だと言ったこと。まるで，この2つが相容れないもののようじゃない。そういう考えに立つと，私たち英語を話す者はケベック人ではない，というわけ？」今度は，「英語を話すケベック人」が疎外されているということになるのである(138)。

---

(136) Don Macpherson, "'Who's a Quebecer' is the new question" *Gazette*, Montreal, 1990. 10. 27 (B3).

(137) *Ibid*.

(138) Germain, *op. cit.*, p 269. Authier, *op. cit.*, (C7).「英語を話すケベック人は，フランス語を話すケベック人ほどケベック的ではない」と受け取ったイギリス系の人々もいる。ケベックナショナリズムの台頭により，ケベックに住むFrench-Canadianと呼ばれていた人々は自らのことをQuébécoiseと呼ぶようになる。Québécoiseとは，ケベックに住んでいてフランス語を話す人々のことを指し，これにより，まずケベックとそれ以外のカナダとの区別

(4) 激怒する ADISQ

授賞式の席上でセリーヌが「最優秀英語部門歌手」賞を辞退したという行為は，上述のような様々な波紋を引き起こしたが，ADISQ にとっては，まさに「面目丸つぶれ」にさせられる事件であった。ADISQ 側は，「最優秀英語系歌手」賞が気に入らなければ，授賞式の前に辞退する機会は十分にあったと言うわけである。そして，「英語部門」にノミネートしたのは，セリーヌの所属する CBS であり，マネジャーのアンジェリルも写真の提供をしたではないか，と主張している(139)。もし，その通りだとすれば，ADISQ が激怒するのはもっともなことである。

しかし，セリーヌのマネジャー・アンジェリルによれば，セリーヌもアンジェリルも全く知らないことであったという。

> 「やつらは大馬鹿でセリーヌがどんな風にケベックの人々に見られるかなんか考えてもいないんだ。それとも全くの悪意でやっているかのどちらかだろう。とんでもない賞だ。もちろん，セリーヌは英語でアルバムは出したよ。でも，それでセリーヌが英語圏のアーティストになったというわけではないだろう。ADISQ の連中は，僕らを困った

が行われることになる。カナダから分離独立を目指すという点では実に明確で分かりやすい。しかし，従来 French-Canadian と呼ばれていた人々は，ケベックに住むフランス語を話す人々のみならず，ケベック以外の人々も含まれていたのである。従って，Québécoise という言葉は，これらの人々を除外することになるのである。さらに，Québécoise という言葉には，当然のことながら，ケベックに住む English-Canadian は除外されている。従来，彼らは，自分たち自身を，マジョリティであるイギリス系カナダに含まれていると考えて，「まずイギリス系であり，カナダ人である」との自己認識であった。しかし，ケベックに住む French-Canadian が Québécoise となって，カナダの他の地域からの区別が明確になってきている状況の中で，ケベックに住む English-Canadian は，「自分たちの心はケベックにある」と感じ，Québécoise であるとの認識に変化してきているのである。Macpherson, *op. cit.*, (B3).

(139) Delean, *op. cit.*, (D5). Authier, *op. cit.*, (C7).

状況に追いやろうとしているんだ。ともかく，僕にとっては，これは罠にかかったということだ。」(140)

本人たちが全く知らなかったと言うのも不思議な話であるが，辞退したのは，「英語部門」の賞は大した賞ではないのでセリーヌ側が「侮辱された」と感じたからだ，という説もある(141)。また，ADISQが反論して述べているように，アンジェリル自身がマスコミの注目を集めるために故意に仕組んだ事だと考える人たちもいる(142)。事実，他の受賞者たちの存在は，すっかり霞んでしまったのであった。

いずれにせよ，真相は不明である。しかし，ビルボードのラリー・ルブランが語っているように，ADISQとしては，ケベック出身のセリーヌ・ディオンが英語で歌う『ユニゾン』を「最優秀歌手」賞にすることは出来なかったのかも知れない(143)。ケベックの音楽業界は財政的にケベック州政府の援助を受けており，折しもケベック州がミーチレーク協定の失敗により「英語系カナダ」から拒否されたと感じていた時なのである。

ADISQは北アメリカにおいて唯一フランス語で運営している組織であり，「セリーヌの英語の歌」を「ケベックのもの」として認めるることは，そのような状況下ではケベック政府との態度とは相容れないものであったと言えよう。セリーヌの所属するCBSも政治に巻き込まれるのを嫌い，アンジェリルに対しセリーヌを英語歌手から外すと言わねばならないほどの

---

(140) Germain, *op. cit.*, pp. 267-268.

(141) Authier,, *op. cit* , (C7)

(142) *Ibid*. Delean,, *op. cit.*, (D5).

(143)『ユニゾン』は，カナダでゴールド・ディスクになるが，その売り上げの99%はケベック内でのものであった。Germain, *op. cit.*, p. 256. Grills,, *op. cit.*, p. 64.「最優秀英語部門女性歌手」賞は，「英語部門」と「フランス語部門」で賞の奪い合いを避けるために1985年に初めて設けられた賞である。Authier,, *op. cit.*, (C7)

状況であったのである(144)。

4．ADISQの反撃

セリーヌが「最優秀英語部門女性歌手」賞を辞退したことは，様々な影響をもたらしたが，それでこの件が一件落着したという訳ではなかった。

翌年，1991年の秋のこと，ADISQは新たな処置を打ち出すのである。ADISQの新たな措置とは，セリーヌのケベック内での公演は認めない，そしてフォーラムでの記念公演もフェリックス賞の対象とはしない，というものであった。まさに，セリーヌを対象とする以外の何物でもなかったのである。つまり，この新たに設けられた規則によれば，フェリックス賞の受賞対象になるには，コンサートの50%がフランス語でなければならないというものであった。ところが，セリーヌの歌の2/3は英語であったのである(145)。ケベック内部において，「ケベックのフランス語文化」を擁護するという論理は，単独で存在するのではなく，「アメリカ文化」に対して「カナダ文化」を擁護するというカナダ社会の法律の精神と関わっているのである。法律により，放送局はカナダ製の内容のものを放送しなければならない。この法律は1970年に作られたもので，カナダ国内でカナダ製の音楽が聞けるようにとの理由からである。午前6時から夜中の12時の時間帯には，音楽の30%がカナダ製でなければならない，というものである(146)。『ユニゾン』からシングルカットされた2曲は，カナダ製とはみなされなかっ

---

(144) Halperin, *op. cit.*, p. 44.

(145) ADISQはCRTC (Canadian Radio-television and Telecommunications Commission)に働きかけ，放送局でも厳しいケベックの基準を採用させるようにさせたと言うことである。Germain, *op. cit.*, pp. 297-298. CRTCの役割に関しては，次のように出ている。"The CRTC is an independent agency responsible for regulating Canada's broadcasting and telecommunications systems. We report to parliament through the Minister of Canadian Heritage." http://www.crtc.gc.ca/

(146) Crouse, *op. cit.*, p. 55.

たのである。歌手はカナダ人だが，音楽，歌詞，制作は外国のものである。この3つのうちの2つがカナダ製でなければ，歌がカナダ製だとは認められないのだ。従って，この定義によれば，『ユニゾン』はnon-Canadianということになる(147)。

セリーヌのマネジャー，アンジェリルは，ADISQに対して「コンサートでの歌の紹介はフランス語でやる」とか，「何と言ってもセリーヌはフランス語圏の歌手だ」とか述べて，再考を求めるのである。さらに，アンジェリルはADISQの理事会の席で，「セリーヌはケベックの偉大な歌手で，フランス，アメリカに出ていこうとしている。セリーヌを後援してくれることが，ADISQの利益にも叶うはずだ。」と述べ，翻意を求めるが，受け入れられるところとはならなかった。理事会は全会一致で拒否したのである。結局，音楽という「文化とアイデンティティ」とに密接に関連する業界の組織が，ケベック政府と知識層が推し進めるケベック・ナショナリズムに背を向けることは困難なことであったのであろう(148)。

当時のナショナリスティックな状況下では，ケベック内部で「論理」により状況を打破するのは不可能なことであった。セリーヌ・ディオンは，歌うという行為により，ケベックを越え，そして文化を越えていく以外になかったのである。

5．カナダを取るの？　それともケベック？ ── セヴィリヤ発言 ──

1992年，7月1日のカナダ建国記念日を前にして，セリーヌ・ディオンはスペインのセヴィリヤ万博のカナダ館でのコンサートに出演していた。そしてコンサート終了後の記者会見で，『モントリオール・ジャーナル』の記者が，「ケベック州では，カナダ英語圏からの分離独立する運動が盛んですが，それをどう思いますか？」と質問したのである。ジャン・ボーノワイエによれば，質問したジャーナリストは，「独立を支持するモントリオー

(147) Germain, *op. cit.*, p. 254.

(148) *Ibid.*, pp. 297-298

ルの新聞社の記者で，しかも，セリーヌをなんとかおとしめようとする底意をもっていた。」と語っているが，そうであれば，その後の混乱が物語るように，見事にその目的を達成したことになる(149)。セリーヌは，ケベックがカナダから独立するのに反対であり，その理由を次のように述べたのである。

「分離するなんて，恐ろしいことだわ。みんな心配しているわ。分離しないように願っているんですもの。……

もちろん，私はどんな形であれ分離することには反対です。……私がスイスで見たもの，それは世界で最も豊かな国スイスで三つの文化が共存しているのです。そして，そのことからカナダの人々も一緒にやっていけるという希望がもてるのです。カナダに二つの文化があることは幸運なことだと思います……。」(150)

さらに，セヴィリヤ万博に参加することが，カナダ統一のために役立てばうれしいし，「他に出来ることがあれば，喜んでするわ」と述べ，ロックシンガーのブライアン・アダムスと共にカナダ統一のために歌う予定だとも述べたのである(151)。

これらの発言が騒ぎを引き起こすことになるのである。スペインからケベックに帰ると，待ち受けていたのは，セリーヌの発言にショックを受けたマスコミからの批判・攻撃であった。「セリーヌ・ディオン，スペインで独立反対の意見をぶちあげる。あのディオンも偉くなったものだ」と書き立てられ，一時的にせよマスコミから「つまはじき」の目にあうのである。

---

(149) ボーノワイエ，前掲書，92-93ページ。「私は仕事がら，色々な国を見てきました。同じ言語をもつドイツが，東西に分断されているのは悲劇です。その一方，スイスでは，異なった3つの言語の人々が，お互い仲良くやっているという現実もあるんですよ」とも述べている。

(150) *Gazette*, Montreal, 1992.7.2 (A3). Germain, *op. cit.*, p. 310.

(151) *Gazette*, Montreal, 1992.7.2 (A3).

ケベックの人々にとっては，セリーヌの発言は驚きであり，あるラジオ局は「セリーヌの歌は放送しない」と言うような有様であった(152)。

ミーチレーク協定の失敗により，カナダ全体から「見放された」との心理状態にあるケベックの人々にとっては，「カナダと一体でありたい」というセリーヌの発言は感情的に受け入れがたいものであったのである。このような状況下では，何を言っても真意を伝えるのは困難なことであろう。しかし，セリーヌは自己の意見を撤回することなく，何度かにわたり次のように述べたのである。

「(ケベックを心から愛していると語り）当分の間は，分離独立しても何にも得られないわ。私だったら，ボーダーは無いほうが良いわ。私はケベックのためになりたいし，より良い世界のためになりたいの。政治は人の感情を扱えないわ。私の仕事は感情を歌いあげることなの。」(153)

「私は政治のことは，よくわかりません。……けれども，1つの国家を健全に保つために必要なのは，国民がお互いに尊敬しあうことだと思います。独立派の人たちは今，焦っていて，他者の意見に耳を貸す余裕がないんじゃないですか？私は独立に反対です。そういって何がわるいの？」(154)

「私の発言がカナダの弁護だったとの印象を持った人もいるかもしれないが，そういう訳ではないのです。私はカナダの擁護のために言ったのではないの。連邦成立の125周年を記念するコマーシャルも断っているわ。私は政治的に利用されたくはないの。私はケベクワーで，そう呼ばれることに誇りを持っているわ。ケベックが分離しようと，

---

(152) Crouse, *op. cit.*, p. 164.

(153) Germain, *op. cit.*, p. 311.

(154) ボーノワイエ，前掲書，93ページ。

とどまろうとね。」[155]

「ほんとうよ。私は分離主義者ではないわ。今のところ，分離することにより得るものがあるとは思わないわ。私の考えでは，世界のどこにも国境がない方がいいわ。でも，私はケベックを支援したいし，もっと良い世界がくるようにも頑張りたいの。私たちの2つの文化がお互いに尊敬しあえるように役立ちたいの。」[156]

これらの発言から言えることは，セリーヌ・ディオンはケベックを深く愛しながらも，カナダとともに居たいという思いである。これは，恐らくセリーヌが最も愛し心の拠り所とする大家族の中で培ってきた価値観によるものであろう。家族が音楽という共通のものを通じて協力し生活をしてきたセリーヌにとっては，分離・独立ということは，まさに〝appalling〟「恐ろしい」ことなのである。さらに，コンサート・ツアーでヨーロッパを周り，その体験に基づいたものでもある。セリーヌは「東西ドイツ」を見て，「国家が分断される」という悲劇を知り，そして「異なった3つの言語の人々が，お互い仲良くやっている」スイスを見て，「カナダもスイスのようにありたい」と実感したのである。つまり，家族の中で培われた価値観とヨーロッパでの体験が，問題発言となった根底にあると言える[157]。

それでは，どのようにして問題に対処しようとしたのであろうか。セヴィリア発言の影響には，セリーヌ・ディオンもかなり参ったようである。「私も，ほとほと懲りたわ。ただ思ったとおりのことを正直に言っただけなのに……。今後はもういっさい，政治的な発言はしないわ」とセリーヌも語っ

---

[155] Crouse, *op. cit.*, p. 164.

[156] *Ibid.*

[157] Halperin によれば，カナダ統一を訴えたのは，マネジャーのルネがセリーヌに言わせたものとある。しかし，セリーヌは24歳になっていたし，上に見てきたセリーヌの一連の発言を検討すれば，セリーヌ自身が述べたことであると考える方がより自然であろう。Halperin, *op. cit.*, p. 44.

ている[158]。また，母親からは，「あなた方，14人が食卓を囲んだ時，みんな14の違った意見かも知れないわね。政治については，話さないようにするのが，対立を避けるのに一番良いことなの。」と諭されている[159]。感情的なナショナリズムの前には，言葉は相手の耳には届かない。例え，耳に届いたとしても，その心にまでは染みていかないのである。セリーヌは，「政治は人の感情を扱えない。私の仕事は感情を歌いあげることなの。」と語っている[160]。そして，セリーヌの行った事は，政治とは距離をとり，コンサート・ツアーに回って歌い，歌手として行動することであった。7月から初の全米ツアーで，何と約20都市を1ヶ月かけて回っている。ツアーは大成功で，さらに8月にはケベックでピーボ・ブライアンとジョイント・コンサートを行う。セリーヌ自身，「独立派のファンの人は，離れていっただろうなと覚悟をしてたんです」と言っているが，こちらのショーも大成功を収めることになる[161]。さらに，12月22日には，アメリカ第42代クリントン大統領が開催したホワイトハウスでの就任祝賀パーティに招かれ，*Love Can Move Mountains* を歌い，その様子が全米にテレビ中継されたのである[162]。このように，歌手として歌い，広くその才能を認められることにより，問題を乗り越えていったのである[163]。

---

[158] ボーノワイエ，前掲書，94ページ。

[159] Grills, *op. cit.*, p 29.

[160] Germain, *op. cit.*, pp. 311.

[161] ボーノワイエ，前掲書，96ページ。

[162] 同上，97ページ。

[163]「彼女はどんなに非難されても，右顧左眄しなかった。その潔さと，生来の人柄のよさと，何よりも歌手としての素晴らしい実力で，次第に事態は収拾へ向かっていった。」とボーノワイエは述べている。ボーノワイエ，同上，93ページ。

6．ケベックとの絆

ケベックにおけるセリーヌの人気は圧倒的で，ほとんどの人々がセリーヌのことを好意的に思っている(164)。ノートル・ダムの教会で結婚式を挙げた時には，集まった群衆は「セリーヌ！　私たちのシンデレラ」，「私たちの小さな女王さま」と叫んだのである(165)。フランス語のマスコミも「私たちの国のセリーヌ」と呼ぶようになり，今ではケベックのアンバサダーであると見なされるようになっている(166)。しかし，英語で歌い始めた時は，どうであっただろうか。英語で歌うということ自体が「裏切り行為」であると見なされ，ケベック内では様々な反発があったのは既に見てきた通りである。英語で歌い出した時，セリーヌは，「何よりもまず，私はケベック出身であることを誇りに思っています。ケベックの人々と一緒に生きてきたことを誇りに思っているのです。」と繰り返し述べている(167)。そして，いつも終わりには，「英語で歌えてどんなにうれしいか。だからと言って，自分のルーツを忘れたことはない。」と述べるのである。「ケベクワーであるということ」が，セリーヌにとっては一番大事なことなのである(168)。

英語で歌い出した後も，ケベックの人々に受け入れられ「われわれのセリーヌ」と呼ばれている理由は，何よりもセリーヌ・ディオンが，ケベックへの愛着の情を言葉だけではなく，行動で示してきたことであろう。まず第一に，英語で歌い始めてからも，同じようにフランス語でも歌い続けているのである。これにより，「セリーヌは英語圏へ行ってしまった」と思っていた人々も，そうではないことに気づき，セリーヌの活躍と功績を認め

---

(164) Dean,, *op. cit.*, p. 67.

(165) Crouse, *op. cit.*, p. 88.

(166) Dean, *op. cit.*, p. 33.

(167) Crouse, *op. cit.*, p. 35.

(168) Germain, *op. cit.*, p. 242. "I'll always be a Quebecker-Canadian. I'm from Quebec and every time I go to a country I say that. It's my roots, my origins and it's the most important thing to me." Grills, *op. cit.*, pp. 21, 27.

るようになるのである[169]。第二に，有名になってからも，活動の拠点は依然としてケベックに置いているということ。そして「1週間もまとまった時間があれば，ケベックの自宅で過ごす」という生活を送っている[170]。こうして，ケベックの人々はセリーヌがケベックと共にあるということを実感するのである。第三に，「われわれケベック人」という感情を共有できるコミュニケーションを図ってきたということである。アカデミー賞授賞式で，オスカー賞やジュノー賞の授賞式で，まさに世界が見ている前で，「ケベック人にしか分からないフランス語」で故郷の人々に直接話しかけるということであった。「ケベックのみなさん，げんきですか。みんなのことを大好きです。これからも，ずーと，私のインスピレーションの源なのよ。」こうして，ケベックへのアイデンティティが示され，空間を越えてケベックの人々と心が一つになるのであった[171]。まさに，政治家が「ケベックは特別な社会であるという言葉を何万回繰り返す」よりも効果的であったのだ[172]。このようにして，ケベックの人々に，「対立することよりも」，むしろ世界につながっているという「共感」を実感させ，そしてプライドと自信を与えてきたのである。

7．タイタニックの衝撃

映画『タイタニック』の爆発的な人気により，セリーヌ・ディオンはケベックだけではなくカナダを越える国際的なポップスターになってしまった。そして『タイタニック』封切りの半年後に，ケベック政府とカナダ政府の双方から最高の勲章を授与されるのである。カナダ以外であれば，これでハッピーエンドであったかも知れない。しかし，まだこの時期になってもハリウッド映画『タイタニック』で *My Heart Will Go On* を歌うこ

---

[169] Grills, *op. cit.*, p. 42.

[170] Dean, *op. cit* , p 54.

[171] Germain, *op. cit* , pp. 305, 399. Grills, *op. cit.*, p 9.

[172] Grills, *op. cit.*, p. 9.

とを快く思わずセリーヌ・ディオンを非難する国会議員がいたのである。

1999年4月6日，ロイターの報道が人々を仰天させる[173]。

「セリーヌ・ディオンはアメリカの歌手になってしまった。彼女の心は，ケベック人でもなければ，カナダ人でもないわ。セリーヌの歌う歌には，ケベック人としての思いは何も反映されてはいないわ。」

「われわれとしては，アメリカの仕掛けた文化的な罠にかからないように注意しなければならないのよ。つまり，セリーヌ・ディオンがタイタニックの中で歌う時，カナダらしいものは何も歌ってはいないということなのよ。」[174]

この発言の主は，カナダから分離独立を主張するブロック・ケベクワー党のスザンヌ・トランブレー議員であり，下院の文化継承委員会がハリファックスで行われた時の発言である[175]。トランブレー議員は，長野オリンピックの時には「カナダの旗が多すぎるわ」とか，ラジオ・カナダのレポーターの完璧なフランス語に（ケベックではなく）ヨーロッパの訛があったため「ケベックの歴史はあんまりご存じないようね」とか，とかく物議をかもす発言で知られてはいた。しかし，今回は，事もあろうか，ケベック人が誇りとするセリーヌ・ディオンに向けられたのである[176]。

4月6日，マスコミから意見を求められたブロック・ケベクワー党のデュセップ党首は，トランブレー議員の発言があった文化継承委員会ではラジオ放送でどの程度カナダ製コンテントを許可すべきかを議論していたわけ

---

[173] Patrick White, "Celine Dion Accused Of Lacking Quebec Soul," QUEBEC CITY (Reuters) Tuesday April 6 1:51 PM ET.

[174] Macpherson, "Suzy Q, the Bloc's loose cannon" *Gazette*, Montreal, 1999. 4.7 (B3).

[175] Paul Wells, "Identity doesn't follow political borders," *National Post*, April 07, 1999.

[176] Macpherson, *op. cit.*, (B3).

で，ディオンの事を話し合っていたわけではないと指摘し，次のように発言してディオンを擁護している。

「私として個人的には，セリーヌ・ディオンは国際的な資質を持った歌手だと思っている。国際的な歌手であり，同時に真のケベック人であることは可能であり，矛盾することではない。」(177)

音楽批評家のソルニエーは，ポップの女王セリーヌが101法案についての歌やギャスペについての歌を歌わないからと言って，ケベックを代表していないという考えは馬鹿げていると一笑に付しながら次のように述べている。

「セリーヌは，みんなの心にプライドを与えてくれたのだ。セリーヌは世界の舞台で成功をおさめたリトル・ケベクワーなんだ。」
「そんな発言をすれば，ケベックの誰からも嫌われるのは確実だ。ここでは，みんなセリーヌに夢中なんだから。」(178)

ソルニエーの言葉にも表れているように，セリーヌ・ディオンはケベックの人々の誇りである。『ガゼット』に寄せられた次の投書からも，一般的にケベックの人々がセリーヌ・ディオンをいかに信頼し支持しているかを知ることができる。

「セリーヌ・ディオンは，依然としてケベック人とカナダ人とに誇りを持たせてくれており，彼女の成功したことにより，ケベック州が失ったものなど何もない。活動の基盤をケベックに置き……国際的なエンターテイメントの場でケベックのミュージック・ビジネスがニューヨークからロサンジェルスにかけて最高のショービジネスとも対等に

---

(177) *Gazette*, Montreal, 1999.4.7 (A6).

(178) *Ibid*.

やっていけることを証明してきているのだ。」[179]

このように「ケベックの心を持たない」というトランブレー議員の発言は的外れも甚だしい。ケベック州政府が最高位の勲章を贈った時に，ブシャール・ケベック州首相は，セリーヌ・ディオンは「ケベックの大使」と述べたのは既に触れた通りであり，その式典の様子がアメリカのテレビで報道されて，それまで無関心であったアメリカ人もセリーヌ・ディオンのケベックについて知ることになるのである。

セリーヌ・ディオンは，これまで自分のアイデンティティはFrench-speaking Quebecerであると誇りをもって語り，そして示してきている。彼女を通して，何百万人もの人々が，それまでは知らなかったケベックのフランス語文化の存在とそのバイタリティに初めて気づくことになったのだ[180]。

とかく問題発言が多い議員の批判であり，まして今やケベックの人々の誇りとなったセリーヌ・ディオンに向けられたものであるから，セリーヌ自身は「セヴィリヤ発言」や英語で歌い始めた時のようなトラブルには巻き込まれることはなかった。さらに，1998年4月30日と5月1日にケベック政府とカナダ政府から最高の栄誉を与えられた時も，ケベックとオタワとの間の政治的綱引きに巻き込まれないような態度を取っていることからも，セリーヌ・ディオン自身の行動や発言が以前のような政治的問題となるようなことは，もはや起こらないであろう[181]。セリーヌは，オタワとケベックの政治的綱引きを否定し，次のように語っている。

---

[179] *Gazette*, Montreal, 1999.4.9 (B2).

[180] *Gazette*, Montreal, 1998.5.1 (A9). Crouse, *op. cit.*, p. 165. Macpherson, *op. cit.*, (B3).

[181] 勲章という栄誉は，「一般のみなさまからいただいたもの」であり，「政治のことは分からないし，巻き込まれたくもありません」と述べ，政治とは距離をおいている。*Gazette*, Montreal, 1998.5.2 (A21).

「私にとって，昨日のことと今日のことは，なんら政治と関係するものではありません。もちろん，私はケベック出身です。私は，シャルルマーニュという小さな町に生まれました。でも，人々が私のことをケベック人かカナダ人かと尋ねたら，私は，ケベック人であると同時にカナダ人でもあるし，そのことを誇りに思っていると言います。」(182)

しかしながら，セリーヌ・ディオンの場合には「的外れな非難」ではあったものの，カナダという社会が抱えている根本的な問題点を示したのも事実である。それは，カナダとアメリカとの関係，そしてケベックとカナダとの関係に関わる事柄である。まず，前述のデュセップ党首の発言にあるように，文化継承委員会が，カナダのラジオが放送する内容の「何割をカナダ製のコンテントにすべきか」を決める会議の席上で「タイタニック問題」が出てきたのである。「カナダ製のコンテント」の法的義務づけがなくなれば，カナダのラジオに流れる内容は圧倒的にアメリカ製になってしまう恐れがあるのである(183)。放送関係者の中には，現在義務付けられているカナダ製の音楽についても，さらに10パーセントの削減を望んでいる者もいるのである。カナダがアメリカ文化の影響から自国の文化を守ろうとする構図の中で，ケベック自身はカナダの英語圏文化からフランス語の文化を守ろうとしているのである。そのような構図の中で，カナダという国家の対外関係に関わる連邦政府の立場は微妙である。連邦政府の文化継承大臣シーラ・コップスは，「国際的な場においてケベック文化を紹介することは文化継承大臣の仕事ではない」と述べたこと自体が問題となるが，この場合も大臣の名前がSheila Coppsではなく Marcel Masseというフランス語の名前であれば大した問題とはならないというような状況が存在しているのである(184)。そして，このようなケベック，カナダ，アメリカという

---

(182) Crouse, *op. cit.*, p. 166.

(183) *Gazette*, Montreal, 1999.4.7 (A6).

(184) Pat Donnelly, "Yes, Mr. Bouchard, there really is Canadian culture,"

構図の中で，それぞれのボーダーを越えて国際的なポップスターになっていったセリーヌ・ディオンの行動が，様々な波紋を引き起こしてきたわけである。しかし，それだけではなく，「ケベクワー」であると同時に「カナダ人」であることができるということも示唆しているのである。

VI. おわりに

ケベックの〝la p'tite Québécoise〟が〝global pop diva〟(国際的スーパースター) となり，ボーダーを越えて活動するセリーヌ・ディオンについて見てきた。ケベックの田舎の「小さな女の子」が「国際的スーパースター」になるなどとは，まさに「夢」のような事であった。そして，「国際的スーパースター」になる過程でケベックの地理的ボーダー，文化的ボーダーを越えて，カナダの英語圏に進出し，さらにアメリカへと進出していき国際的な成功を収めたのである。同時に，その過程で様々な波紋や影響，そして変化をもたらしたのは既に見てきた通りである。このようなセリーヌ・ディオンの行動から，いくつかの重要な点を指摘することができる。

まず第一に，普通では越えがたい様々なボーダーを「国際的スーパースター」になることによって越えていったのであるが，セリーヌが「国際的スーパースター」になるのに極めて重要な影響を与えたのが，「遅れて現れた伝統的ケベック」と言う言葉で象徴できる「音楽をするカトリックの大家族」であった。セリーヌにとっては，友達や学校という社会よりも，生まれた時から既に存在していた「大家族」という小さな社会が全てであった。そして，その大家族が協力して作り上げる音楽という活動そのものが，「好きでたまらない」(価値) のであった。同時に，敬愛するカトリックの両親が休む暇もなく働く姿を見て，自然と勤勉さが身についていったのである。もし，セリーヌ・ディオンが異なった環境に生まれ育っていたとしたら，「カナダの歌姫」が存在することはなかったであろう。

Gazette, Montreal, 1999.4.3 (D7).

第二に，セリーヌ・ディオンが「国際的スーパースター」になることが出来たのは，類い希なる生まれつきの声であり，人々を惹きつけるキャラクターであった。セリーヌの歌がフランス語で歌われていたとしても，日本のヤマハ世界音楽祭やユーロヴィジョンで優勝したことからも解るように，声そのものがボーダーを越える資質を持っていたと言える。さらに，英語で歌い始めたことにより，それまでフランス語の歌には関心のなかった英語圏の人々の心の中にまで入っていったのである。

第三に，ボーダーを越えて異なる文化を持つ人々を惹きつけたのは，セリーヌ・ディオンの歌う歌の内容と関係していると言ってよいだろう。セリーヌが歌う歌は，愛をテーマにしたポップスであり，ロックのように体制に対するメッセージとも関係がない。つまり，場所，空間，時間，文化，年齢，性別には関係なく，まさに誰もが経験する事柄であるので，本質的にボーダーを越える可能性を持っていたと言える。

第四に，セリーヌ・ディオンの場合は，カナダ的文脈の中でボーダーを越えなければならなかったのである。〝la p'tite Québécoise〟が，ケベックというボーダーを越えて，カナダの英語圏に出ていくこと自体が極めて困難なことであった。同じカナダという国に属しながらも，ケベックが，とりわけミーチレーク協定の失敗により英語系カナダから孤立し極度にナショナリスティックになっている時期に，ケベック出身の歌手が英語で歌うということ自体が「裏切り行為」と見なされる状況が存在していたのである。「英語で歌うこと」が，セリーヌの意図とは関係なく政治的な事柄になるのである。そのような状況をも乗り越えていくのだが，それには，まず政治には巻き込まれないようにするということと，さらに英語で歌い始めてからも，以前と同様にフランス語でも歌い続けることにより，「決してケベックを離れたわけではない」ということを示してきたからである。

第五に，セヴィリア発言に象徴して見られるように，カナダのマスコミも人々も常にセリーヌの言動を，「カナダ」対「ケベック」という対立する図式の中で捉えようとしてきた。しかし，そのような考え方は，セリーヌにとって一番大事な「大家族の中で身につけた協力しあって一つの目的(音

楽)を成し遂げる」という価値観とは相容れないものであった。そして,その態度を変えることなく,ひたすら歌い続けて「国際的な評価」を得ることにより「対立の図式」を越えることが出来たのである。英語だけで歌ったのであれば,英語圏のカナダに属するものと見られたであろう。またフランス語だけで歌うのであれば,ケベックに属する歌手としてしか見られなかったであろう。つまり,英語でも歌い,フランス語でも歌い,さらに「国際的に認められる」という一段と高い次元に到達することにより,「ケベクワーでもあり同時にカナダ人でもある」というセリーヌの主張が説得力を持つことになるのである(185)。

最後に,セリーヌ・ディオンの起こした変化は非常に大きいと言ってもよいだろう。「政治」がなし得なかったこと,つまりQuébécoiseであること,そしてCanadianであることに誇りを与えてくれたのである。カナダの中では正当な扱いを受けていないと思っていたケベックの人々を「カナダを越えて」アメリカ人の茶の間に,そして世界の人々の茶の間に紹介し,その存在と文化を認知させたのである。同様に,英語圏カナダの人々にとっても,アトランタ・オリンピックでセリーヌ・ディオンが歌った時のように,「アメリカ文化に飲み込まれそうになっているカナダ」が,セリーヌに象徴されるカナダ文化を,アメリカ人の前に示すことができたのである。QuébécoiseとCanadiansの心の中に起こったこれらの変化は,セリーヌ・ディオンが英語とフランス語の両方で歌い続けたことにより,そして,ボーダーを越える「ケベックの歌姫」がglobal pop diva「国際的なスーパースター」となることにより,初めて起こりえたことなのである。

---

(185)「セリーヌは,今この国が必要としているものだ。……つまり,コミュニケーションが,まだ可能であり,分断と孤立に至るものではないという希望なのである。」と『エドモントン・サンデー・サン』が述べているように,人々の認識の仕方に変化がおこっている。「セリーヌが,カナダの英語圏に登場してから,国家というものへの情熱を呼び起こし,英語系とフランス系との和解の象徴」として見なされてきている。Germain, *op. cit.*, p. 282.